

CR1 for MT4

designed by 素数ソフトウェア

説明書 (v2.041)

本ソフトウェアをご使用になる前に必ず使用許諾条件をお読みください。本ソフトウェアを使用した場合、使用許諾条件に同意されたものと見なします。

一部の MetaTrader 4 用インジケータは、本ソフトウェアと併用できない場合がございます。

本説明書で使用している画像の一部は、開発中のものや他のインジケータの画面を使用しています。
一部、画面が最新版と異なる場合があります。

MetaTrader は MetaQuotes Software Corp.の登録商標です。

本ソフトウェアについて

お問い合わせ窓口	https://indicators.sosu-software.com/enquiry-ja/ お問い合わせは、上記 URL よりお送り願います
取扱種別	有償でライセンスされるソフトウェア（無償試用可能）
動作環境	「動作環境（6 ページ）」をご覧ください
インストール方法	「インストール／バージョン・アップ方法（正式版・試用版共通）（7 ページ）」をご覧ください
価格・ご購入方法	https://indicators.sosu-software.com/cr1/#order 価格、ライセンスの購入方法について詳しくは、上記の URL をご訪問願います

最新版の自動確認について

本ソフトウェアには、最新版のリリースを確認して通知する機能が備わっています。この機能は標準で有効になっていますが、無効に設定することもできます。詳しくは、「起動時に「このソフトウェアの新しいバージョン *.* がリリースされています。」と表示された（46 ページ）」の項目をご覧ください。

目次

使用許諾条件.....	3
動作環境.....	6
インストール／バージョン・アップ方法（正式版・試用版共通）.....	7
ライセンス・キーの設定方法.....	15
使用方法.....	16
基本的な使い方.....	16
トレード・パネル（擬似トレード）機能の使い方.....	18
ボタンとショートカット・キー.....	24
特に重要な使用上のご注意.....	25
全般的な使用上のご注意.....	26
試用版の制約事項.....	26
設定.....	27
ボタンの設定.....	27
ショートカット・キーの設定.....	28
機能の設定.....	29
自動再生の設定.....	32
トレード・パネルの設定.....	33
値幅ゲージの設定.....	36
高度な設定.....	37
CR1-subwin-**の設定.....	38
CR1 用インジケータ並べ替えツール.....	39
インジケータを並べ替える手順.....	39
CR1 用インジケータ並べ替えツールの並べ替え結果を元に戻す.....	41
トラブル・シューティング（こんなときは）.....	42
ライセンス・キーの適正な使用の推進について.....	47
バージョン履歴.....	48

使用許諾条件

本ソフトウェアをご使用いただくには、使用許諾条件に同意する必要があります。本ソフトウェアを使用された場合、この使用許諾条件に同意されたものと見なします。

1. 用語の定義

○ **本ソフトウェア**

この使用許諾条件と同時に配布される MT4 用インジケータ・ファイル“CR1****.ex4”（****の部分の文字列や文字数は版によって異なる、以下、「インジケータ本体」と記載）、および、インジケータ本体と同時に配布され、かつインジケータ本体から参照される一切のファイルを指します。

○ **ユーザ**

正式版、試用版を問わず、本ソフトウェアの使用許諾を得た個人を指します。

○ **作者**

本ソフトウェアの作者を指します。

○ **著作権者**

本ソフトウェアの著作権を有する者を指します。

2. ユーザの権利、義務、禁止事項

1. ユーザは、本ソフトウェアを、ユーザ自身が使用する MetaTrader 4 に無制限にインストールして使用することができます。ただし、販売経路、頒布経路によって、別途インストールまたはアクティベートできる回数に制限が設けられる場合は、その制限が適用されます。
2. ユーザは、別途使用期限が明示されている場合を除いて、本ソフトウェアを永久に使用する権利を有します。サブスクリプション・ライセンスなどの、有効期限が明示されているライセンスを保持するユーザは、その期限まで本ソフトウェアを使用する権利を有します。ただし、本条文は、本ソフトウェアが動作する基盤（MetaTrader 4、OS、その他）の仕様変更等により本ソフトウェアが正常に動作しなくなった場合に、本ソフトウェアが正常に動作するように改修されることを保証するものではありません。
3. ユーザは、パソコンの故障等に備える目的で、本ソフトウェアのバックアップを保管することができます。
4. ユーザは、形態や手段の如何を問わず、本ソフトウェアを使用する権利を他人に譲渡することはできません。
5. ユーザは、形態や手段の如何を問わず、本ソフトウェアを他人に使用させてはなりません。
6. ユーザは、形態や手段の如何を問わず、本ソフトウェアのライセンス・キーを他人に開示してはなりません。
7. ユーザは、形態や手段の如何を問わず、本ソフトウェアをリバース・エンジニアリングしてはなりません。
8. ユーザは、本ソフトウェアを再頒布してはなりません。ただし、著作権者の書面による明示的な許諾を得た場合はこの限りではありません。

9. ユーザは、本ソフトウェアと、本ソフトウェアとは作者を異にする別のソフトウェアが連動して動作する機能について、当該別のソフトウェアの作者に当該機能について問い合わせをしてはなりません。
 10. ユーザは、作者および著作権者が 3.2.および 3.4.に規定される権利を行使することを正当な理由なく妨げ、もしくは遅延させてはなりません。
 11. ライセンス・キーの使用者（客観的証拠によりライセンス・キーを不正に使用している可能性が高いと考えられる者を含む）は、作者または著作権者が 3.4.に規定される権利を行使した場合は、遅滞なく回答しなければなりません。また、当該回答にあたって、虚偽の回答をしてはなりません。
 12. ユーザは、本ソフトウェアの試用版を本ソフトウェアのライセンスの購入を検討する目的以外の目的で使用してはなりません。
 13. 本ソフトウェアを試用するユーザは、本ソフトウェアを連続する 28 日間を超えて試用してはなりません。ただし、試用を開始した日から 84 日を経過したあとは、ユーザは本ソフトウェアを再度連続する 28 日間試用できます。なお、作者または著作権者による別途の書面による定めがある場合には、本項によらず試用が許諾される場合があります。
3. 作者および著作権者の権利、義務
1. ユーザがこの使用許諾条件に違反した場合、作者および著作権者は、当該ユーザに対する本ソフトウェアの使用許諾を即時終了させる権利を有します。この場合、既納のライセンス料は返還しません。
 2. 作者および著作権者は、ユーザが使用中の本ソフトウェアの種類、バージョン、復元不可能な形に加工されたライセンス・キーを通信により取得する権利を有します。また、当該通信の発信元情報を当該通信により送信される情報と紐付けて記録する権利を有します。
 3. 作者および著作権者は、前項の規定により取得した情報を、以下に掲げる目的の他に使用してはなりません。
 - i. ライセンス・キーが使用許諾条件に従って使用されているか否かを調査する目的
 - ii. ライセンス・キーの使用状況を確認する目的
 4. 前々項の規定により取得した情報に基づく客観的な証拠により、ライセンス・キーが不正に使用されている可能性が高いと考えられる場合は、作者および著作権者は、ライセンス・キーの使用者（客観的証拠によりライセンス・キーを不正に使用している可能性が高いと考えられる者を含む）に対して、当該不正の有無を確認するために必要な範囲、かつ社会通念上許容される範囲で質問をする権利を有します。
4. 免責事項、制約事項
1. 本ソフトウェアは、外国為替証拠金取引やその他のあらゆる取引を勧誘、推奨、助言するものではありません。本ソフトウェアを使用して生じた如何なる結果（投資判断やその結果生じた損益、本ソフトウェアの不具合等による取引プラットフォームの使用不可を含むが、それらに限らない）についても、作者および著作権者は責任を負いません。

2. 本ソフトウェアは現状有姿で提供されます。作者および著作権者は、本ソフトウェアの不具合修正や改善などを含むユーザからの要求に応える義務を負いません。ただし、販売経路、頒布経路によって、これらの権利が認められている場合には、この限りではありません。
 3. 本ソフトウェアは日本国内で利用されることを前提としています。ユーザが本ソフトウェアを日本国外で利用した場合に生じるいかなる法的な問題（当該地域における第三者の知的財産権に関する紛争を含むが、これに限らない）においても、作者および著作権者は責任を負いません。
5. その他
1. 本使用許諾条件に定めのない事項については、日本国の法律によります。
 2. 本使用許諾条件に関する訴訟の第一審の専属管轄裁判所は作者または著作権者が指定します。

使用許諾条件、以上

動作環境

本ソフトウェアを動作させるには、以下の OS のいずれかと、Meta Quotes 社の MetaTrader 4 が快適に動作している環境が必要です。

- OS
 - Windows 10 日本語版 64-bit Home Edition (ver. 1903 以降); または
 - Windows 10 日本語版 64-bit Professional Edition (ver. 1903 以降); または
 - Windows 11 日本語版 64-bit Home Edition; または
 - Windows 11 日本語版 64-bit Professional Edition

ディスプレイは解像度が 1280×720 ピクセル以上（※注）のものをご使用ください。ディスプレイの解像度がこれよりも低い場合でも動作はしますが、操作性が著しく低下します。

MEMO

32-bit 版や日本語版以外の OS については、動作はすると思いますが、原則としてサポートはいたしかねます。ご購入いただく場合は、試用版で動作確認の上、ご使用に支障がないことをご確認の上でご購入ください。また、各 OS においてサービスパックが提供されている場合は、必ず最新のサービスパックを適用の上ご使用ください。

MEMO

Meta Quotes 社の MetaTrader 4 の入手方法については、次行の URL の記事をご覧ください。

https://indicators.sosu-software.com/?p=1251#mt4_demo_account

※注

ただし、Windows の設定で「テキスト、アプリ、その他の項目のサイズを変更する」を 100% よりも大きく設定している場合は、その割合分大きい解像度が必要です。

例えば、「テキスト、アプリ、その他の項目のサイズを変更する」を「125%」に設定している場合は、 $(1280 \times 1.25) \times (720 \times 1.25) = 1600 \times 900$ ピクセル以上の解像度を持つディスプレイが必要です。

インストール／バージョン・アップ方法（正式版・試用版共通）

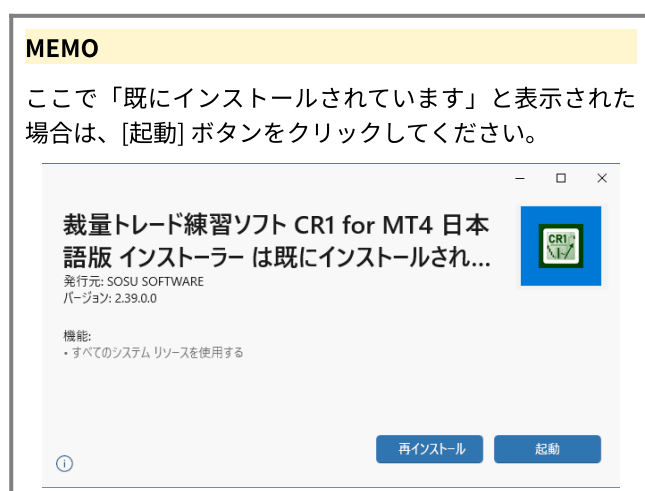
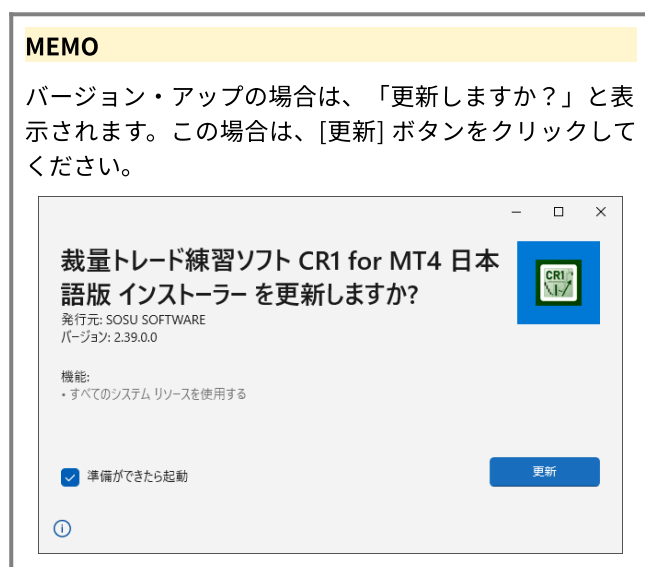
CR1 を正しく動作させるため、以下の手順に従ってインストール作業を実施してください。

インストーラーを起動する

CR1-V.VVV-XXXXXXXX-Setup.msix（V.VVV の部分には本ソフトウェアのバージョン番号、XXXX の部分には数字が入ります）を起動します。

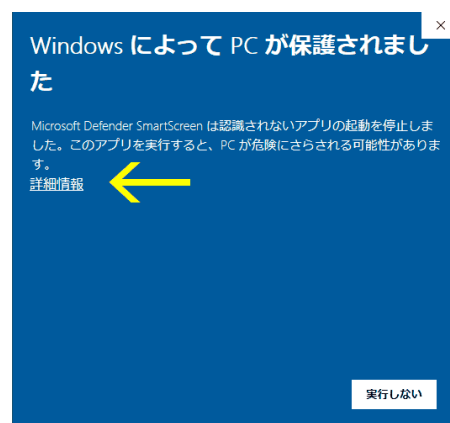
右図のようなダイアログが表示されます。

左下の [準備ができたら起動] がチェックされていることを確認し、[インストール] または、[更新] をクリックします。

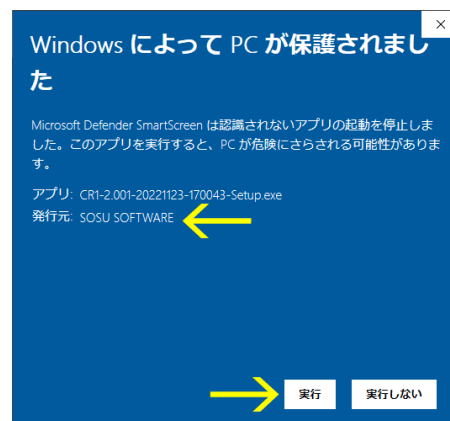


右図のようなメッセージが表示された場合は、黄色矢印で示した[詳細情報]をクリックします。

※このメッセージは表示されない場合もあります。

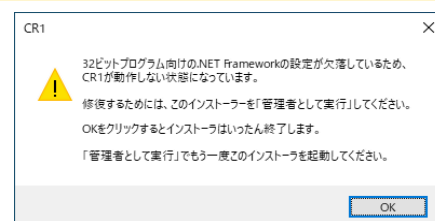


すると、[実行] ボタンが現れますので、発行元が SOSU SOFTWARE と表示されていることを確認して、[実行] ボタンをクリックしてください。



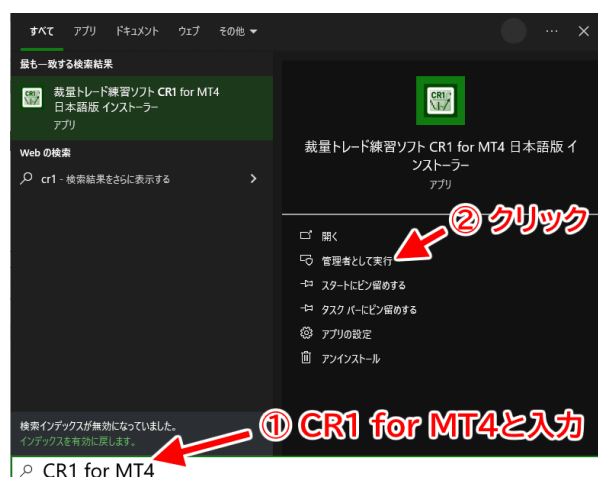
MEMO

ここで、右のようなメッセージが表示された場合は、OK ボタンをクリックしてインストーラーをいったん終了させてください。



次に、Windows のスタートメニューで「CR1 for MT4」とタイプし、

現れた「裁量トレード練習ソフト CR1 for MT4 日本語版 インストーラー」の「管理者として実行」をクリックしてください。これでインストーラーが起動しますので、次のページの手順から続行してください。



[次のページへ続く](#)

インストール方法を指定する

インストーラーが起動すると、右図のような画面になります。特に理由がない限り、「簡単インストール【推奨】」ボタンをクリックしてください。

「簡単インストール」をクリックした場合は、「ライセンス・キーを入力する（10 ページ）」へお進みください。



次に示す条件に該当する場合は、「条件を指定してインストール」をクリックしてください。

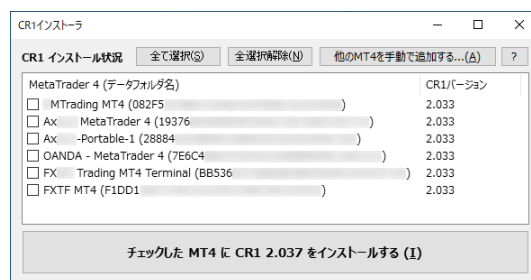
- 複数の MetaTrader 4 をインストールしている場合で、全ての MetaTrader 4 に CR1 をインストールするのではなく、個別にインストール対象の MetaTrader 4 を選択したい場合
- ポータブル・モードでインストールした MetaTrader 4 に CR1 をインストールする場合

インストール先の指定とインストール

（「条件を指定してインストール」をクリックした場合のみ）

インストーラーは MetaTrader 4 のインストール先を検出して表示します。

本ソフトウェアをインストールしたい MetaTrader のチェックボックスをチェックして、画面下部の [チェックした MT4 に CR1 2.037 をインストールする (I)] ボタンを押してください。

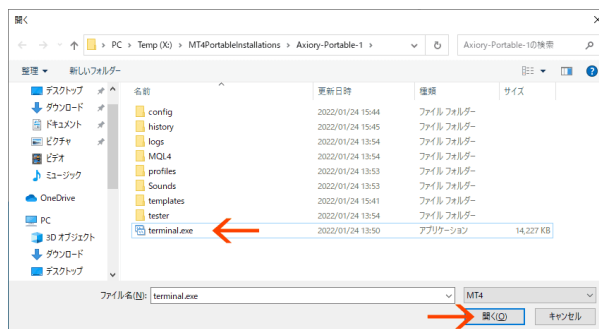


MEMO

ポータブル・モードの MetaTrader 4 は自動検出されませんので、手動でリストに追加する必要があります。

追加するには、「他の MT4 を手動で追加する」ボタンを押して、ポータブルモードの MetaTrader 4 の実行ファイル (terminal.exe) を指定して開いてください。

指定した MetaTrader 4 の実行ファイルを含むフォルダが「MT4 フォルダ」に表示されれば、正しく MetaTrader 4 のインストール先として認識されています。

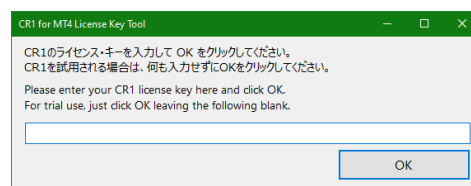


ライセンス・キーを入力する

ライセンス・キーを入力する画面が表示されます。

ライセンス・キーをお持ちの場合は、ライセンス・キーを入力して OK ボタンをクリックしてください。なお、ライセンス・キーは大変長いので、コピー・アンド・ペーストで設定されることをおすすめいたします。

CR1 を試用される場合は、何も入力せずに OK ボタンをクリックしてください。



MEMO

ライセンス・キーのお知らせ方法はライセンスをご購入いただいたサイトによって異なります。ご購入いただいたサイトの商品説明をご確認ください。

MEMO

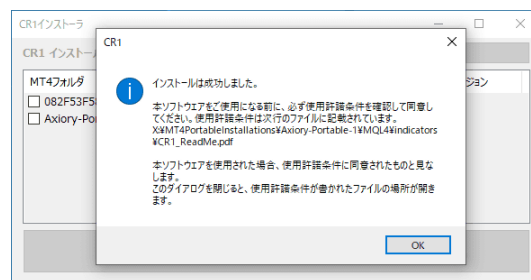
ここでライセンス・キーを入力しなくても、あとでライセンス・キーを設定できます。本マニュアルの「ライセンス・キーの設定方法」の項目をお読みください。

[次のページへ続く](#)

インストール作業が完了すると、右図のようにメッセージが表示されます。

MEMO

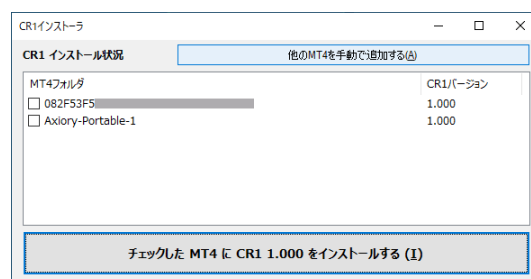
ここで「インストールに失敗しました」と表示される場合は、いったんパソコンを再起動いただき、起動直後にもう一度「インストーラーを起動する」からやり直してください。



OK ボタンを押すと、インストール先にコピーされた本文書の場所がエクスプローラで開きます。

必ず使用許諾条件をご確認いただき、内容に同意いただいてから本ソフトウェアをご使用ください。

右図のように、[CR1 バージョン] の表示がインストールしたバージョンに変化していれば、インストールは成功しています。



新規インストールではなくバージョン・アップ作業をされている場合は、ここで作業は終了です。

新しく CR1 をインストールされている場合は次のページへお進みください。

[次のページへ続く](#)

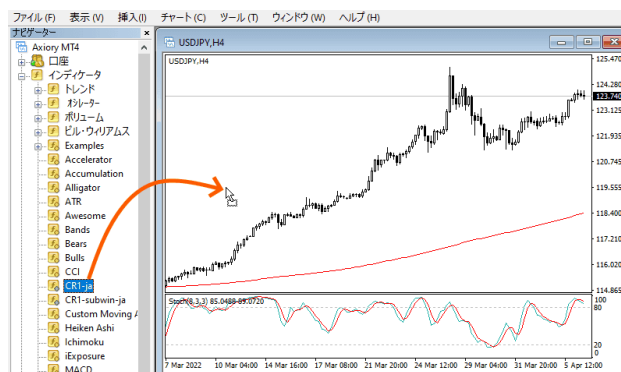
チャートへの導入

メイン・ウィンドウへの導入

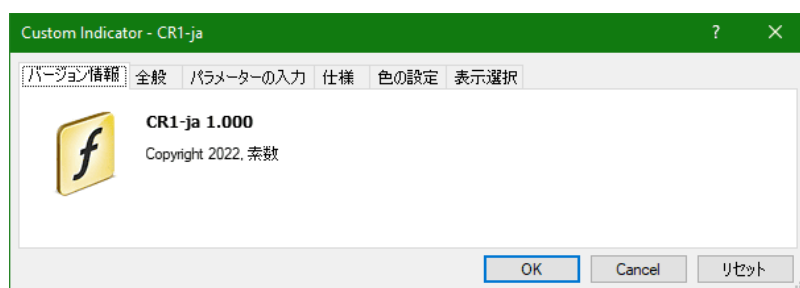
MetaTrader 4 で、[ナビゲーター] が表示されていない場合は、メニューから [表示] → [ナビゲーター] と選んで表示させます。

本インジケータを導入したいチャートを開いてください。

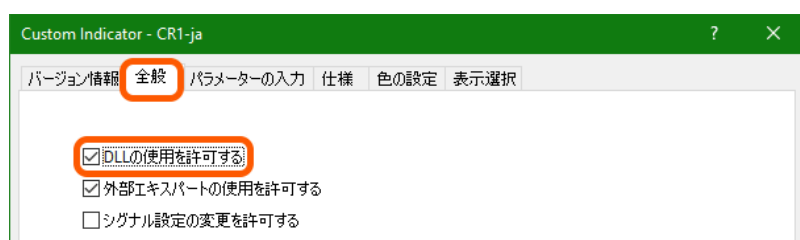
まず、ナビゲーターの [インディケータ] 以下から CR1-ja を探し、CR1 を導入したいチャートに向かってドラッグ・アンド・ドロップします。



下図のようなダイアログが表示されます。



[全般] タブをクリックし、[DLL の使用を許可する] をチェックします。



[OK] ボタンをクリックします。

次のページへ続く

正しく導入できれば、（初期設定では）チャートの左下にボタン類が表示されます。

お好みで、ショートカット・キーを始めとする各種の設定を変更してください。

設定項目の詳細については、「設定」をお読みください。



ほかにも CR1 を導入したいチャートがある場合は、同じ作業をすべてのチャートに対して繰り返してください。

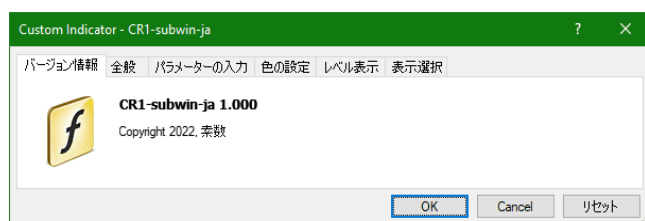
サブ・ウィンドウにおいて、CR1 対応版インジケーターではないインジケーター（MACD など）を 1 つでも使用している場合は、続きの「サブ・ウィンドウへの導入」の手順も実施してください。サブ・ウィンドウがないチャートの場合や、サブ・ウィンドウで CR1 対応版インジケーターだけを使用している場合は、ここで設定はいったん終了です。

必要な方のみ「こだわる方向けの追加の作業」へ進んでください。

サブ・ウィンドウへの導入

ナビゲーターの [インディケータ] 以下から CR1-subwin-ja を見つけて、サブ・ウィンドウ部分にドラッグ・アンド・ドロップします。

下図のようなダイアログが表示されます。



サブ・ウィンドウに導入しているオシレーターが折れ線グラフで表示されるタイプの場合は、CR1-subwin-ja に対して特に設定は必要ありません。このまま OK を押してダイアログを閉じてください。それ以外の場合は、[パラメーターの入力] タブをクリックし、「折れ線グラフモード」を false に変更することをお勧めします。設定を変更したら、OK を押してダイアログを閉じてください。

ここまでの設定での CR1 の動作に特にご不満がない場合は、ここでインストール作業は終了です。

必要な方のみ、次のページの「こだわる方向けの追加の作業」へ進んでください。

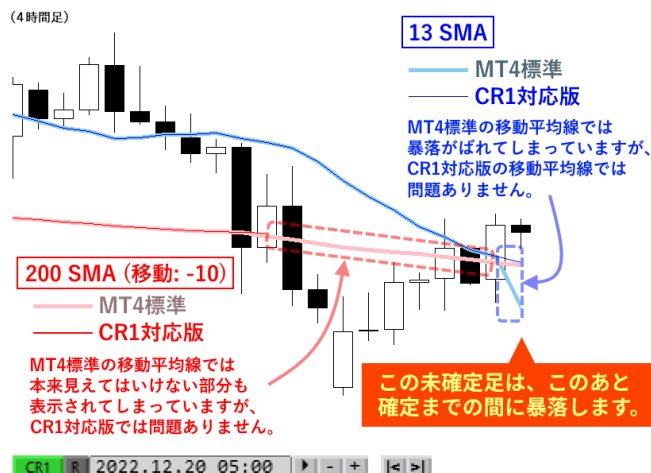
こだわる方向けの追加の作業

この節では、CR1 の表示と現実のチャートの細かな差にこだわる方向けの追加の作業を説明しています。ここまでの設定での CR1 の動作に特にご不満がない場合は、この節の作業は不要です。

トレーニング・モード中の右端付近でのインジケータ類の表示を改善する

CR1 のトレーニング・モードにおいて、右図のように、MetaTrader 4 に付属しているインジケータやその設定によっては、未来の値動きが分かってしまう場合があります。例えば、移動平均線の「期間」がおおむね 50 以下の場合や「表示移動」がマイナスの場合は、CR1 が隠せていない範囲の線の傾きを読むことで、未来の値動きが分かります。

この現象を改善されたい場合は、MetaTrader 4 標準のインジケータに代えて、CR1 対応版インジケータをご使用ください。下記の**注意事項**も必ずお読みください。



注意事項

- CR1 対応版インジケータは CR1 本体とは別に配布されます。詳細は次行の URL をご覧ください。
<https://indicators.sosu-software.com/cr1-aware-indicators/>
- 本ソフトウェアの開発元である素数ソフトウェア以外の第三者が開発および提供する CR1 対応版インジケータについては、本ソフトウェアの開発者、販売者は問い合わせを受け付けません。あしからずご了承願います。
- CR1 と CR1 対応版インジケータを正しく動作させるためには、チャートへのインジケータの挿入順序を守る必要があります。詳しくは、「特に重要な使用上のご注意（→25 ページ）」および「CR1 用インジケータ並べ替えツール（→39 ページ）」をお読みください。

ライセンス・キーの設定方法

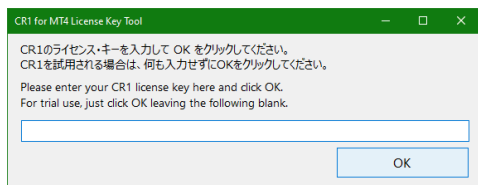
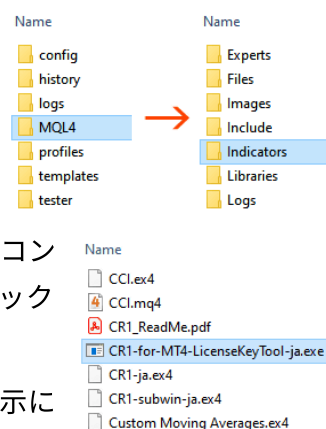
ライセンス・キーは以下の方法のいずれかで設定できます。

1. インストール作業時に設定する方法
2. 設定ツールを使用する方法
3. レジストリ・エディタを使用する方法（Windows について詳しい知識のある方向け）

1. については、本マニュアルの「インストール／バージョン・アップ方法（正式版・試用版共通）」の項目をお読みください。本項では 2. と 3. の手順を説明します。

設定ツールを使用する方法

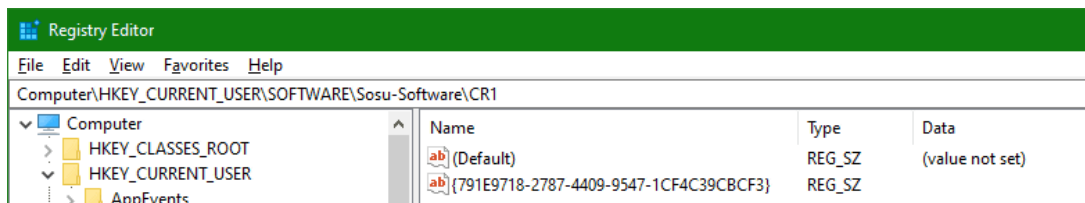
1. CR1 をインストール済みの MetaTrader 4 を起動します。
2. [ファイル] メニューの [データフォルダを開く (D)] をクリックして、データフォルダを開きます。
3. MQL4 → Indicators の順にフォルダを開きます。（右図）
4. CR1-for-MT4-LicenseKeyTool-ja.exe（※末尾の.exe はお使いのパソコンの設定によっては表示されていない場合があります）をダブルクリックして開きます。
5. ライセンス・キーを設定するウィンドウが開きますので、画面の指示に従って設定してください（下図）。なお、ライセンス・キーは大変長いので、コピー・アンド・ペーストで設定されることをおすすめいたします。



レジストリ・エディタを使用する方法

この方法は Windows について詳しい知識のある方向けです。以下の説明の意味が理解できない場合は、絶対にこの方法を実行しないでください。この方法で設定を誤ると、パソコンが正常に動作しなくなる可能性があります。

1. レジストリ・エディタで HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Sosu-Software\CR1 を開きます。
2. 値「{791E9718-2787-4409-9547-1CF4C39CBCF3}」がない場合は文字列型で新規作成します。
3. 値「{791E9718-2787-4409-9547-1CF4C39CBCF3}」の値データにあなたのライセンス・キーを設定します。



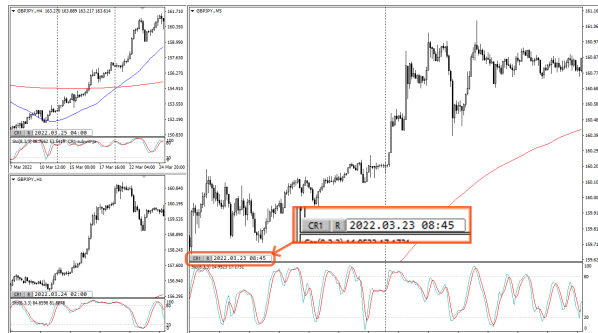
使用方法

基本的な使い方

まず、トレードの練習を始めたい過去の時刻のチャートを表示します。日付時刻ボックスには自動的にチャートの右端の時刻が入力されます。

MEMO

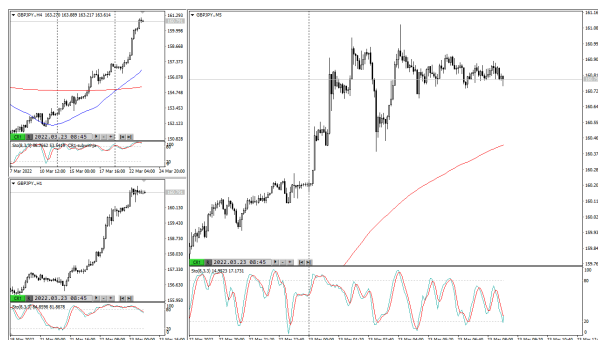
[R] ボタンを押すと、日付時刻ボックスにランダムな時刻を入力することができます。



[CR1] と書かれたボタンを押します。

[CR1] ボタンが緑色に変わり、日付時刻ボックスに入力した時刻より右側のチャートが見えなくなります。

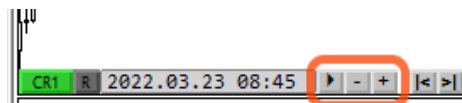
他の時間足のチャートも自動的に [CR1] ボタンが緑色に変わり、同時刻に移動し、右側が見えなくなります。



MEMO

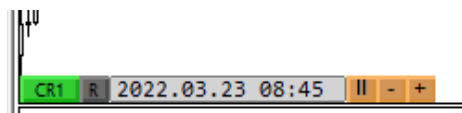
CR1 では、この [CR1] ボタンが緑色の状態を「トレーニング・モード」と呼びます。

トレーニング・モードになると同時に、自動再生ボタン（右図赤枠）などが表示されます。



再生ボタン（[▶]）をクリックすると自動再生が始まります。

自動再生中は、再生ボタンは一時停止ボタン（[⏏]）に変わり、さらに自動再生ボタンに色がつきます。

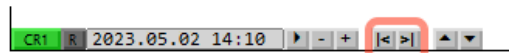


加速ボタン（[+]）や減速ボタン（[-]）を押すことにより、再生速度を調節できます。加速するとボタンの色は赤くなり、減速すると緑色になります。

自動再生を一時停止するには、一時停止ボタン（[⏏]）をクリックします。

次のページへ続く

自動再生が一時停止しているときには、ローソクを1本ずつ送ることができます。ローソクを送る（未来へ進める）には、自動再生が一時停止している状態で、[>]ボタンを押すか、設定したショートカット・キーをクリックします。



ローソクを巻き戻す（過去に戻る）には、自動再生が一時停止している状態で、[<]ボタンを押すか、設定したショートカット・キーをクリックします。

MEMO

ローソクを送るか巻き戻す際、[Shift] キーを押しているか代替時間足ロック状態の場合は、現在のチャートのローソクに代えて、代替時間足のローソク1本分時刻が変化します。

MEMO

代替時間足ロック中の場合、[<], [>]の両ボタンはオレンジ色で表示されます。代替時間足ロック状態を変更するには、「各機能のショートカット・キー」の「代替時間足ロック／ロック解除」に設定したショートカット・キーを押します。



価格軸を拡大または縮小するには、それぞれ[▲]または[▼]ボタンをクリックします。

緑色の[CR1]ボタンをクリックすると、トレーニング・モードを終了します。トレーニング・モードが終了すると、CR1によって隠されていたチャートが表示され、[CR1]ボタンは灰色に戻ります。

各ボタンには対応するショートカット・キーを設定可能です。詳しくは「設定」の「各機能のショートカット・キー」の項目をお読みください。

トレード・パネル（擬似トレード）機能の使い方

この章では、擬似トレードができるトレード・パネル機能の使い方を説明します。初めてお使いの場合は、以下の手順でトレード・パネル機能をオンにしてお使いください。

トレード・パネル機能をオンにする

トレード・パネル（擬似トレード）機能は、標準ではオフになっています。

トレード・パネル（擬似トレード）機能を使用するには、まず、CR1 for MT4の「パラメータの入力」画面を開き、本マニュアルの「トレード・パネルの設定」の記載に従って、「トレード・パネルを使用する」設定をtrueに変更してください。



MEMO

同一シンボル（通貨ペア）のチャートを複数枚開いている場合（マルチタイム・フレーム分析をされる場合など）は、そのうちの1枚のチャートのCR1に対してだけ、この設定をtrueにしてください。

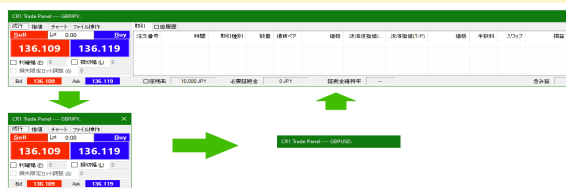
設定に問題がなければ、以下のようなウィンドウが開きます。



このウィンドウが開かない場合は、本マニュアルの「トラブル・シューティング（こんなときは）」の「チャート左上に「トレード・パネルの設定にエラーがあります」と表示される」の項目などを参考に設定のエラーを解消してください。

MEMO

トレード・パネルは、完全な表示の他、注文操作部分のみの表示や、タイトルバーのみの表示に切り替えることもできます。表示を切り替えるには、トレード・パネルのタイトルバーをダブルクリックするか、「ショートカット・キーの設定」の「トレード・パネルの表示モード変更」に設定したショートカット・キーを押します。操作のたびに、表示モードが図の順に切り替わります。



MEMO

トレード・パネル機能は、**必ず、パソコンをインターネットに接続し、かつ取引口座（デモ口座でも可）にログインした状態でご使用ください**。取引口座にログインしていない場合、トレード・パネルは動作しません。

MEMO

トレード・パネル機能は、お使いの取引業者で実際には取引できないシンボル（通貨ペア）では動作しません。例えば、FXTF様のJPN225-cdは、価格データが提供されるためチャートは表示できますが、CR1での擬似トレードはできません。（2024年2月現在）

次ページへ続く

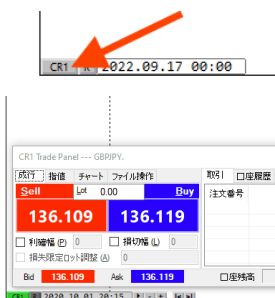
トレーニング・モードに入って擬似トレードする

チャート内の [CR1] ボタンを押してトレーニング・モードに入ります。

すると、CR1 の時刻の時点での価格がトレード・パネルに表示され、擬似エントリーが可能になります。赤いボタンは「成行売り」、青いボタンは「成行買い」です。

「利益幅」「損切幅」にチェックを入れると、成行での売買発注と同時に、指定した値幅の決済注文を発注できます。値幅は Points 単位で指定してください。

「損失限定ロット調整」にチェックを入れると、1 回のトレードでの最大許容損失を指定できます。損切幅を指定すると、損切りまでの値幅と最大許容損失からロットを自動的に調整します。



MEMO

最大許容損失は口座資金の通貨で指定します。ただし、末尾に「%」をつけると、有効証拠金に対する割合で指定することができます。

MEMO

オープン・ポジション（決済まで完了していない注文）の個数は 200 個が上限です。既に 200 個のオープン・ポジションがある場合は、既存のオープン・ポジションを決済、またはキャンセルすると、新しく発注できるようになります。

「指値」タブをクリックすると、指値注文も可能です。価格欄右側の「現」ボタンをクリックすると、現在値を価格欄にコピーできます。現在値をコピーすると、決済逆指値、決済指値欄の価格も値幅を保ったまま変更されます。



注文は「取引」タブのリストに表示されます。さらに、MetaTrader 4 の設定で「チャート上にポジションとオーダーを表示」がチェックされている場合は、チャート上にエントリー価格、決済指値価格、決済逆指値価格が水平線により表示されます。



注文を編集するには、リストに表示されている注文をダブルクリックしてください。指値や逆指値の編集が可能です。または、チャートに注文価格を示す水平線が表示されている場合は、この水平線をドラッグすることによっても注文価格を変更できます。なお、注文価格を示す水平線を Tab キーを押しながらクリックすると、その注文を取り消すことができます。

エントリー済みの注文を成行決済するには、「取引」タブの注文リスト右端の「×」ボタンをクリックしてください。

[illegible]

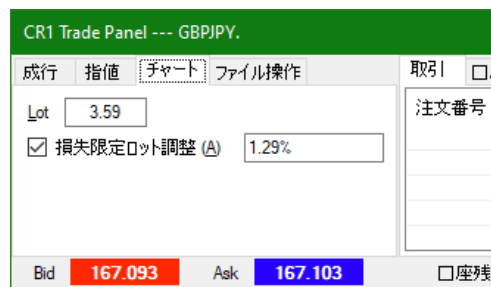
個別のトレードの損益表示は、設定により金額で表示するか、Points 単位で表示するかを選択できます。詳しくは「トレード・パネルの設定」の「損益の表示モード」の項目をご覧ください。

チャート上から擬似トレードの指値注文を新規発注する

トレード・パネルの「チャート」タブをクリックして、事前にロットを設定しておきます。チャート上から新規発注した場合、「チャート」タブの設定に従って発注されます。

MEMO

v2.027 以前のバージョンから v2.028 以降のバージョンにバージョン・アップした場合、Lot、損失限定ロット調整、最大許容損失額の設定は、「指値」タブの設定内容が自動的にコピーされます。



MEMO

オープン・ポジション（決済まで完了していない注文）の個数は 200 個が上限です。既に 200 個のオープン・ポジションがある場合は、既存のオープン・ポジションを決済、またはキャンセルすると、新しく発注できるようになります。

「損失限定ロット調整」にチェックを入れてその右側に最大許容損失を入力しておくと、チャートで新規発注と同時に逆指値も指定した場合は、逆指値で決済された場合に損失が最大許容損失以下となるようロットが自動調整されます。

MEMO

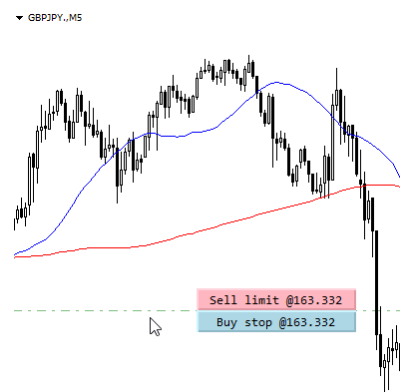
逆指値を指定しない場合は、Lot 欄に入力されているロットで発注されます。

MEMO

最大許容損失は口座資金の通貨で指定します。ただし、末尾に「%」をつけると、有効証拠金に対する割合で指定することができます。

トレード・パネルが動作している通貨ペアのチャート上で、[F6] キー（設定により、[F7], [Alt], [Shift] のいずれかにも変更可能）を押しながらチャートをクリックすると、右図のように薄い水平線と、売買ボタンが表示されます。

売買ボタンのいずれかをクリックするとその価格で新規の指値注文が発注されます。発注価格は、ボタンをクリックする前に水平線をドラッグすることにより変更できます。

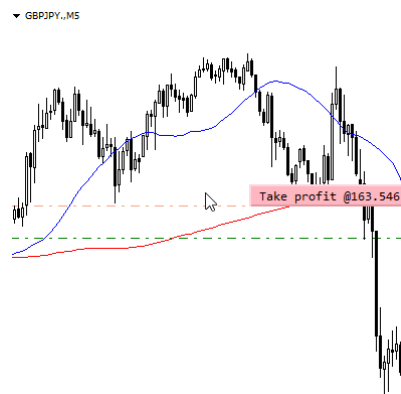


注文を取りやめるには、チャート上の売買ボタンや水平線のないところをクリックします。

売買ボタンをクリックする際に [F6] キー（設定により、[F7], [Alt], [Shift] のいずれかにも変更可能）を押しておくことにより、右図のような画面となり、引き続き決済指値または決済逆指値を指定することができます。

ボタンをクリックすると注文価格を確定します。決済価格は、ボタンをクリックする前に水平線をドラッグすることにより変更できます。

ボタンをクリックする際に [F6] キー（設定により、[F7], [Alt], [Shift] のいずれかにも変更可能）キーを押しておく、さらにもう一つの決済価格を指定することができます。



なお、決済価格を2つ指定する場合は、指値と逆指値を1つずつ指定する必要があります。両方とも指値、もしくは両方とも逆指値を指定した場合は発注されません。

決済指値、決済逆指値を指定する順序は任意です。

チャート上から決済注文を追加する

トレード・パネルが動作している通貨ペアのチャート上で、エントリー済みの注文のエントリー・ラインをドラッグすると、そのエントリーに対する決済注文を追加することができます。

MEMO

「ドラッグによる注文誤編集対策を使用する」を true に設定している場合にこの方法で決済注文を追加するには、エントリー・ラインをドラッグし始める際に、[Alt] か「擬似トレードをチャートから発注」ショートカット・キーを同時に押しておく必要があります。

MEMO

既に存在する決済注文の価格を変更する場合は、決済注文を表すラインをドラッグして変更してください。

MEMO

チャートから発注した注文を成行決済するには、「取引」タブで該当する注文の右端の × 印をクリックします。

価格	手数料	スワップ	損益
64.956			482 x
含み益			48,200 JPY

MEMO

オープン・ポジション（決済まで完了していない注文）の個数は200個が上限です。既に200個のオープン・ポジションがある場合は、既存のオープン・ポジションを決済、またはキャンセルすると、新しく発注できるようになります。

トレード履歴を CSV ファイルにエクスポートする

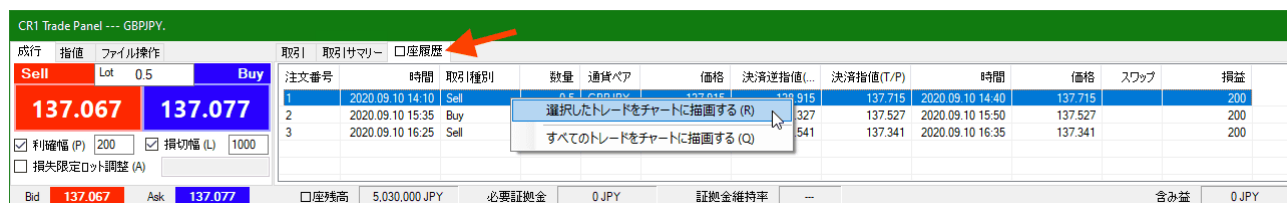
トレード・パネルの「ファイル操作」タブをクリックし、「CSV ファイルにエクスポートする」ボタンをクリックすると、トレード履歴を CSV ファイルに出力することができます。表計算ソフトで読み込んで、ご自身のトレードを分析することができます。



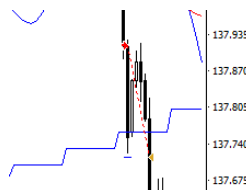
また、上図のように「口座履歴」タブをクリックすると、決済済みのトレード履歴を確認することができます。

トレード履歴をチャートに描画する／トレード履歴の位置にチャートを移動させる

擬似トレードの履歴をチャートに描画するには、「口座履歴」タブでトレード履歴を選択して右クリックし、「選択したトレードをチャートに描画する」メニューをクリックします。



右図のようにチャートにトレードが描画されます。



また、トレード履歴のうち 1 つをダブルクリックすると、そのトレードのエントリー時刻の位置にチャートが移動します。

口座を初期状態に戻す

上図の「口座をリセットする」ボタンを押すと、いつでも口座を初期状態に戻すことができます。

ボタンとショートカット・キー

本ソフトウェアの機能呼び出すには、チャート画面上に表示されたボタンか、ショートカット・キーを使用します。いくつかの機能は、ショートカット・キーまたはボタンの一方でのみでサポートされる場合があります。

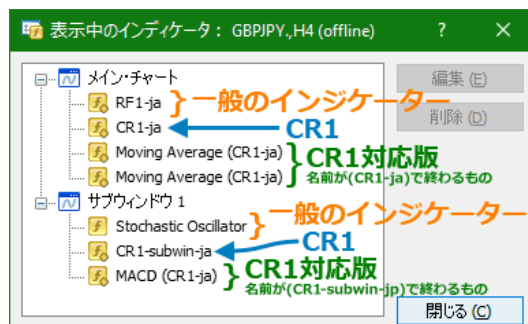
ショートカット・キーは、他のインジケータとの競合を避けるために一括で無効化することもできます。無効化するには、本ソフトウェアの [パラメータの入力] 画面で、[ショートカットキーを有効にする] を false に設定してください。

機能毎にキーの割り当てを個別に設定で変更したり、無効に設定することもできます。他のインジケータとショートカット・キーが衝突しないように注意して設定してください。

特に重要な使用上のご注意

1. 本ソフトウェアを正しく動作させるためには、チャート内でのインジケータの挿入順序を守ることがあります。チャート内では、次の順番でインジケータを挿入してください。

- ■一般のインジケータ
- ■CR1-ja (サブ・ウィンドウの場合は CR1-subwin-ja)
- ■CR1 対応版インジケータ



MEMO

- ・CR1 対応版インジケータは名称の末尾に“(CR1-ja)”または“(CR1-subwin-ja)”と括弧書きが付きまます。
- ・インジケータの順序を並べ替えるには、「CR1 用インジケータ並べ替えツール (→39 ページ)」が便利です。

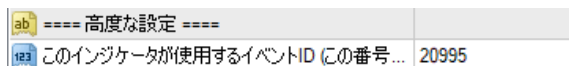
2. トレーニング・モード中 ([CR1] ボタンが緑色の間) は、「チャートを前面に表示」の設定は強制的にオフになります。このため、チャートに描画したオブジェクトのうち「背景として表示」のチェックが入っていないオブジェクトはチャートの前面に表示されます。チャートより背面に表示したいオブジェクトには「背景として表示」を設定してください。
3. トレーニング・モード中 ([CR1] ボタンが緑色の間) は、「背景として表示」が設定されているオブジェクトは、未完結の最終足以降は表示されません。ただし、垂直線のメイン・ウィンドウ部分に限り、未完結の最終足以降も表示されます。
4. トレーニング・モード中 ([CR1] ボタンが緑色の間) は、未完結の最終足以降にある垂直線は選択状態やドラッグ中の状態が表示されません。
5. 移動平均線と CR1 対応版インジケータを除く各種インジケータは、未完結の最終足以降は表示されません。
6. トレーニング・モード中は「チャートの自動スクロール」の設定が強制的にオフになり、トレーニング・モードを終了したあともオフのままとなります。トレーニング・モード終了時に「チャートの自動スクロール」をオンにするには、「トレーニング・モードを終了するときにチャートの自動スクロールを有効にする」の設定を変更してください。
7. CR1 を導入しているチャートに MetaTrader 4 標準の移動平均線を追加、または MetaTrader 4 標準の移動平均線の設定を変更した場合は、変更を CR1 に認識させるために MetaTrader 4 を再起動してください。再起動するまでは CR1 が隠しているチャート部分の移動平均線の表示は、変更前の設定に基づいて描画されます。



8. トレード・パネル機能は、原則として、パソコンをインターネットに接続した状態でご使用ください。特に、通貨ペアの決済通貨と仮想口座の通貨が異なる場合は、必ずインターネットに接続した状態でお使いください。通貨ペアの決済通貨と仮想口座の通貨が異なる場合、損益額の計算のために、換算用通貨ペアのデータをお使いのブローカーのサーバーから取得します。インターネットに接続されていない場合、換算用の価格データが取得できず、トレード・パネルが正しく動作しませんのでご注意ください。

全般的な使用上のご注意

1. MetaTrader 4 の「表示中のライン等リスト」機能で、「すべて (L)」が有効になった状態のときにだけ表示されるオブジェクトは削除しないでください。
2. 本ソフトウェアに使用期限が設定されている場合、使用期限を過ぎると本ソフトウェアは動作しなくなります。
3. 本ソフトウェアをバージョンアップする場合、事前に MetaTrader 4 の標準の機能で本ソフトウェアの設定をバックアップしておくことをおすすめします。本ソフトウェアをバージョンアップすると、設定が初期値に戻される場合があります。
4. 本ソフトウェアは、チャート間でのラインの同期等にイベントを使用します。この番号の範囲が他のインジケータと重複しているとインジケータが誤作動しますので、必要に応じて設定で変更してください。設定を変更する場合、CR1 を使用するチャート全てに対して同じ値を設定してください。本ソフトウェアが使用するイベント番号の範囲は、初期設定では 20995～21026 です。本ソフトウェアは、指定された番号から連続する 32 個の番号を使用します。



5. 本ソフトウェアは NM0 と併用できません。同一のチャートに本ソフトウェアと NM0 が両方導入されている場合は、誤作動の原因になりますので、できるだけ速やかに NM0 をチャートから削除してください。

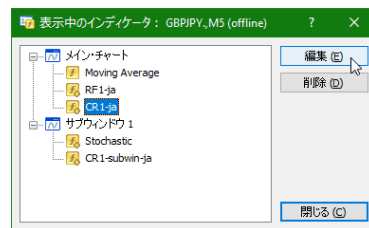
試用版の制約事項

ライセンス・キーを空文字列に設定すると、本ソフトウェアは試用版として動作します。試用版では以下の制約事項がございます。

1. 試用版は、トレーニング・モードに入ったあと 3 分間たつと動作を停止します。再び動作させるには、MetaTrader 4 を再起動するか、チャートを再表示してください。
2. 試用版では、擬似トレードの新規発注は 3 回まで可能です。ただし、仮想口座をリセットすると、再び 3 回まで擬似トレードを発注できるようになります。
3. 試用版では、チャートに“CR1 TRIAL”と表示されます。
4. バージョンによって、試用版としてお使いいただける期限が設定されている場合があります。この期限を過ぎた場合、当該バージョンは有効なライセンス・キーが入力されている場合に限り正しく動作します。

設定

CR1 の設定を変更するには、CR1 を導入しているチャート上で [Ctrl] + [I (アイ)] を入力して「表示中のインディケータ」を表示し、CR1-ja を選択して [編集 (E)] ボタンをクリックします。



ボタンの設定

ボタン類を表示する

初期設定では true に設定されています。false に設定すると、ボタンを非表示にすることができます。

==== ボタン類の設定 ====		
	ボタン類を表示する	true
	ボタン類の位置	Left lower chart corner
	ボタン類位置調整(横)	0
	ボタン類位置調整(縦)	0
	ボタン類のサイズ	100%

ボタンの位置

ボタンをチャートのどの角に表示するかを設定します。

ボタン位置調整（横）、（縦）

チャートの角からボタンをどれくらい離して表示するかをピクセル数で指定します。他のインジケータとボタンの表示位置が重なる場合、この設定で本ソフトウェアのボタン位置を調整してください。

ボタン類のサイズ

標準のボタン類のサイズが小さい場合、本設定を変更して大きく表示させることができます。

ショートカット・キーの設定

ショートカット・キーを有効にする

初期設定ではショートカット・キーは有効（true）です。

false に設定すると、全てのショートカット・キーが無効になります。他のインジケータとの競合が多数ある場合、本ソフトウェアのショートカット・キーを無効にすることで問題を緩和できる可能性があります。

ab	==== ショートカットキーの設定 ====	
	ショートカットキーを有効にする	true
123	トレーニング・モード有効／無効切り替え	1 (デンキー)
123	ランダムな日付時刻を設定する	2 (デンキー)
	Ctrl+Shift+左右矢印キーでローソクを送る(トレーニング・モード中...	true
123	指定時刻を1本戻す(トレーニング・モード中のみ有効)	Z
123	指定時刻を1本進める(トレーニング・モード中のみ有効)	X
123	自動再生開始／停止	5 (デンキー)
123	自動再生減速	4 (デンキー)
123	自動再生加速	6 (デンキー)
123	トレード・パネルの表示モード変更	9 (デンキー)
123	価格軸縮小	7 (デンキー)
123	価格軸拡大	8 (デンキー)
123	代替時間足ロック／ロック解除	. (デンキー)
123	疑似トレードをチャートから発注	F6

Ctrl+Shift+左右矢印でローソクを送る

true に設定すると、トレーニング・モード中に [Ctrl] + [Shift] + [←] / [Ctrl] + [Shift] + [→] キーで、それぞれローソクを1本戻す／1本送ることができます。拙作のインジケータ NM0 の操作と同じ操作でローソクを操作したい場合には、本設定を true に設定してください。

各機能のショートカット・キー

各機能呼び出すショートカット・キーをお好みで設定してください。

MEMO

複数の機能に同一のショートカット・キーを設定しないでください。CR1 の設定内で重複がある場合には、チャート左上に「CR1: ショートカット・キーに重複があります。」と表示されます。

▼ GBPJPY,,M5 147.529 147.558 147.504 147.518

CR1: ショートカット・キーに重複があります。

重複しているショートカット・キーは、MetaTrader 4 の [ターミナル] の [エキスパート] タブを開くと表示されます。重複しているショートカット・キーを変更して重複を解消してください。[ターミナル] は [Ctrl] + T で表示できます。

時間	メッセージ
2022.05.04 23:42:04.490	CR1-ja GBPJPY,,M5: initialized
2022.05.04 23:42:04.490	CR1-ja GBPJPY,,M5: CR1: ショートカット・キーに重複があります。(指定時刻を1本進める(トレーニング・モード中のみ有効), 指定時刻を1本戻す(トレーニング・モード中のみ有効))
2022.05.04 23:42:04.489	CR1-ja GBPJPY,,M5: 試用版 有効期限: 2022.07.31

取引 | 運用比率 | 口座履歴 | ニュース | アラーム設定 | メールボックス | マーケット | シグナル | 記事 | ライブラリ | **エキスパート** | 操作履歴 |

機能の設定

ランダム選択範囲始点

[R] ボタンを押してランダムに日付時刻を選択する場合、選択範囲の始点の時刻を指定します。この時刻より前やヒストリカル・データが存在しない時刻は選択されません。

ランダム選択範囲終点

[R] ボタンを押してランダムに日付時刻を選択する場合、選択範囲の終点の時刻を指定します。この時刻より後ろは選択されません。ただし、1970.01.01 0:00 を指定した場合は例外で、最新時刻までの任意の時刻が選択されます。

ランダム選択時刻をこの時間足の境界にそろえる

ランダムに選択される時刻はここで選択した時間の倍数になります。例えば、1 Day を設定した場合、ランダムに選択される時刻は任意の日付の 0:00 となります。

巻き戻しを許可する

false に設定すると、トレーニング・モード中にショートカット・キーでローソクを巻き戻すことができなくなります。トレード練習中に巻き戻してやり直せないようにするには false を設定してください。

制限中チャートの右側表示

true に設定すると、トレーニング・モード中に最終足の右側に余白を表示するところまでスクロールできるようになります。

右側表示中の価格軸を調整する

通常は true に設定してください。true に設定すると、CR1 の隠していないローソク足の最高値や最安値を、CR1 の隠しているローソク足が更新している場合でも、最高値や最安値がもうすぐ更新されることが分からないよう、価格軸を調整します。この設定が true のとき、トレーニング・モード中に価格軸を拡大または縮小するには、価格軸をドラッグする代わりに CR1 の [▲][▼] ボタンを使用してください。false に設定すると、CR1 は価格軸を調整しません。

最終価格に水平線を表示する

true に設定すると、CR1 の時刻の最終価格に水平線を表示します。

最終価格の水平線の色

CR1 の時刻の最終価格に表示する水平線の色を指定します。

30	==== 機能の設定 ====	
📅	ランダム選択範囲始点	2018.01.01 00:00
📅	ランダム選択範囲終点	1970.01.01 00:00
🕒	ランダム選択時刻をこの時間足の境界に揃える	1 Day
🔄	巻き戻しを許可する	true
📊	制限中チャートの右側表示	true
📊	右側表示中の価格軸を調整する	true
📊	最終価格に水平線を表示する	true
🎨	最終価格の水平線の色	■ Silver
🔄	トレーニング・モード中は日付時刻を変更禁止にする	true
📊	CR1が隠している部分の移動平均線を描画する	true
🔄	トレーニング・モード中は常に自動スクロールする	false
🔄	トレーニング・モードに入るときにチャートの現在位置を維持する	false
🔄	トレーニング・モードを終了するときチャートの自動スクロールを有効にする	false
🔄	トレーニング・モードを終了するときチャートの現在位置を維持する	false
🕒	代替時間足	current
🔄	[END]キーで全チャートを最新時刻にスクロールする	true
📊	時刻をローカル・タイムゾーンで表示する	true
🕒	ブローカーのタイムゾーン	ロンドン
🕒	マーケットオープン時刻補正 (+24~+24)	0.0
🕒	ローカル・タイムゾーン	東京

トレーニング・モード中は日付時刻を変更禁止にする

false に変更すると、トレーニングモード中でも [R] ボタンを押してチャート位置をランダムな位置に変更できます。

CR1 が隠している部分の移動平均線を表示する

初期設定は true になっており、CR1 が隠している部分に移動平均線が表示されます。false に変更すると、未確定足以降の移動平均線は表示されなくなります。CR1 の動作が重い場合、この設定を false に変更することにより改善する可能性があります。

トレーニング・モード中は常に自動スクロールする

初期設定は false になっており、トレーニング・モード中は最終足がチャートの視界に入っていないときは自動スクロールしません。これにより、トレーニング・モード中に過去の値動きを調べているときに意図せず最終足に飛んでしまうことがなくなります。

true に設定すると、トレーニング・モード中はチャートの表示位置に関係なく、チャートが更新されるたびに最終足の位置にチャートが移動します。true に設定したときの動作は v1.001 までの動作と同じです。

トレーニング・モードを終了するときにチャートの自動スクロールを有効にする

トレーニング・モード中は CR1 がチャートのスクロール制御を担当するため、MetaTrader 4 側の「チャートの自動スクロール」の設定を強制的に無効にします（この動作は仕様で、変更できません）。この設定を true に変更すると、トレーニング・モードを終了するときに、CR1 が自動スクロールを有効に変更します。

普段自動スクロールを有効にしているチャートで CR1 をお使いになる場合は、本設定を true に変更すると便利です。

代替時間足

代替時間足モードでロックしているか Shift キーを押しながら、「指定時刻を 1 本進める」または「指定時刻を 1 本戻す」の操作を行った場合、チャートの時間足に代えて使用する時間足を指定します。この機能を正しく動作させるには、代替時間足のチャートが MetaTrader 4 で開かれており、かつ代替時間足のチャートにも CR1 を導入しておく必要があります。代替時間足を使用しない場合は、「current」に設定してください。

代替時間足モードにロックする／ロック解除するには、「ショートカット・キーの設定」の「代替時間足ロック／ロック解除」に設定したショートカット・キーを押してください。

[END]キーで全チャートを最新時刻にスクロールする

true に設定すると、[END]キーを押して最新時刻にチャートを移動したときに、CR1 が導入されている他のチャートも最新時刻にスクロールします。この動作が不要な場合や、他のツール等と動作が干渉するなどの不都合がある場合は、false に設定してください。

時刻をローカル・タイムゾーンで表示する

この設定を true にすると、チャート内の日付時刻入力欄およびトレード・パネル上の時刻はローカル・タイムで表示されます。

ブローカーのタイムゾーン

お使いのブローカーが採用しているタイムゾーンを指定してください。正しく指定しないと、夏時間と冬時間が正しく認識されず、ローカル・タイムが正しく表示されませんのでご注意ください。

マーケットオープン時刻補正

通常は 0 に設定してください。CR1 では、大半のブローカーと同様、ニューヨーク時間の午前 7 時を日付の切り替わりとして扱います。お使いのブローカーが異なる時刻を日付の切り替わりとして取り扱っている場合のみ、その差分を時間単位でここに入力してください。

ローカル・タイムゾーン

現在地のタイムゾーンを指定します。「時刻をローカル・タイムゾーンで表示する」が true に設定されている場合、CR1 の日付時刻入力欄およびトレード・パネルで表示される時刻はこのタイムゾーンに基づきます。

自動再生の設定

再生速度の初期値

再生ボタン [▶] が最初に押されたときの再生速度を指定します。

低速／やや低速／中速／やや高速／高速

自動再生時にローソクを送る頻度を 5 段階分指定できます。「○秒」を選択すると、その時間が経過するごとに 1 本ローソクが送られます。「○倍速」を選択すると、ローソクの時間足の「○分の 1」の時間が経過するごとに 1 本ローソクが送られます。

ab	==== 自動再生の設定 ====	
123	再生速度の初期値	中速
ab	自動再生時のバー送り間隔	
123	↓ 低速	2秒
123	↓ やや低速	1秒
123	↓ 中速	0.5秒
123	↓ やや高速	0.2秒
123	↓ 高速	0.1秒

トレード・パネルの設定

トレード・パネルを使用する

標準では false に設定されています。true に設定すると、その時間足の通貨ペアのトレード・パネルが開きます。

1 つの MetaTrader 4 で同一通貨のチャートを同時に複数開いている場合、開いているチャートの中から 1 つだけ選んでこの設定を true にしてください。

仮想口座の通貨

「口座通貨と同じ」に設定すると、お使いの MetaTrader 4 の口座と同じ通貨を使用します。それ以外の通貨を選んで設定することもできます。

ab	====トレード・パネルの設定====	
📈	トレード・パネルを使用する	true
100	仮想口座の通貨	口座通貨と同じ
100	仮想口座の初期残高	5000000.0
100	損益の表示モード	Points
100	スプレッド (points)	10.0
100	ロットの初期値	1.0
100	レバレッジ (1~2000)	500.0
100	強制ロスカットとなる証拠金維持率	0.2
100	証拠金計算方法	エントリー価格で計算する
ab	決済通貨→口座通貨の変換用通貨ペア	
📈	決済通貨→口座通貨の変換は割り算	false
📈	ドラッグによる注文誤編集対策を使用する	false
ab	疑似トレードでの指値約定時の動作	
ab	指値約定時に自動再生を一時停止する	
📈	トエントリー	true
📈	ト利確	true
📈	ト損切またはロスカット	true
ab	指値約定時に再生する音声ファイル	alert.wav
📈	Sellボタンの色	Red
📈	Sellボタンの文字色	White
📈	Buyボタンの色	Blue
📈	Buyボタンの文字色	White

MEMO

インターネットに接続されていない場合や、ブローカーのサーバと通信できない状況では、口座通貨の自動判定ができず、トレード・パネルが起動しません。その場合は、明示的に口座通貨を設定してください。

損益の表示モード

トレード・パネルの各トレードの損益を、ポイント単位で表示するか(points)、金額単位で表示するかを設定します。

仮想口座の初期残高

初めてトレード・パネルを開いたときの仮想口座の残高を設定します。単位は MetaTrader 4 口座の資金の通貨です。MetaTrader 4 口座の残高が日本円の場合は日本円、米ドルの場合は米ドル単位で設定します。

負の値を入力すると、0 とみなされます。

スプレッド (points)

MetaTrader 4 の過去チャートには Bid 価格しか記録されていないため、CR1 では Ask 価格は Bid 価格に固定値のスプレッドを足して計算します。お使いの FX ブローカーの、この通貨ペアにおける標準的なスプレッドを設定してください。単位が points ですのでご注意ください。

ロットの初期値

トレード・パネルで初期値として入力する取引ロット数を指定します。

レバレッジ

トレード・パネル内の仮想トレードにおいて必要証拠金の計算に使用するレバレッジを設定します。範囲外の値を指定した場合は、範囲内に丸められます。

強制ロスカットとなる証拠金維持率

強制ロスカットが発動する証拠金維持率を設定します。お使いのブローカーに合わせて設定してください。証拠金率 100%で強制ロスカットとなる場合は 1.0 を設定します。50%でロスカットとなる場合は 0.5、証拠金率 20%で強制ロスカットとなる場合は 0.2 に設定してください。

負の値を入力すると、0 とみなされます。

証拠金計算方法

ブローカーによって、必要証拠金をエントリー価格で計算する場合と、市場価格で都度計算する場合があります。お使いのブローカーに合わせて設定してください。

決済通貨→口座通貨の変換用通貨ペア

通常は空欄のままにしておき、CR1 に自動判定させてください。

CR1 による自動判定がうまく動作しない場合は、決済通貨から口座通貨への損益の換算に使用するシンボル名（通貨ペア）を指定します。お使いのブローカーにより、シンボル名に接頭辞や接尾辞がついている場合があります。この場合、接頭辞や接尾辞も忘れずに指定してください。

お使いの FX ブローカーでレート情報が提供されていないシンボル名を指定すると、トレード・パネルは動作しません。

決済通貨→口座通貨の変換は割り算

「決済通貨→口座通貨の変換用通貨ペア」が空欄の場合、この設定は無視されます。**通常はこの設定を気にする必要はありません。**

仮想取引の損益を口座の通貨単位に換算する場合、決済通貨での損益を「決済通貨→口座通貨の変換用通貨ペア」の価格で割り算する場合は true に設定します。この設定を誤ると、決済時の損益の計算が正しくできませんのでご注意ください。

なお、投資資金が日本円の場合、この設定を false にしなければならないケースはほとんどありません。以下にいくつかの設定例を掲載します。

投資資金の通貨	チャートの通貨ペア	決済通貨→口座通貨の変換用通貨ペア	決済通貨→口座通貨の変換は割り算
JPY	EURUSD	USDJPY	false
JPY	USDCHF	CHFJPY	false
JPY	EURGBP	GBPJPY	false
JPY	GOLD (XAUUSD)	USDJPY	false
USD	EURGBP	GBPUSD	false
USD	GBPJPY	USDJPY	true
EUR	GBPUSD	EURUSD	true

ドラッグによる取引変更に‘Alt’キーを使う

擬似トレードの注文を示す水平線をドラッグする場合に、ショートカット・キーの設定で「擬似トレードをチャートから発注」に設定されているキーを同時に押すことを要求する場合は true に設定します。この設定を true にすると、不用意に注文をドラッグしてしまい、意図せず注文が変更されてしまうことを防げます。

擬似トレードでの指値約定時の動作

擬似トレードにおいて指値注文（エントリー、決済とも）が約定した場合の動作を指定します。

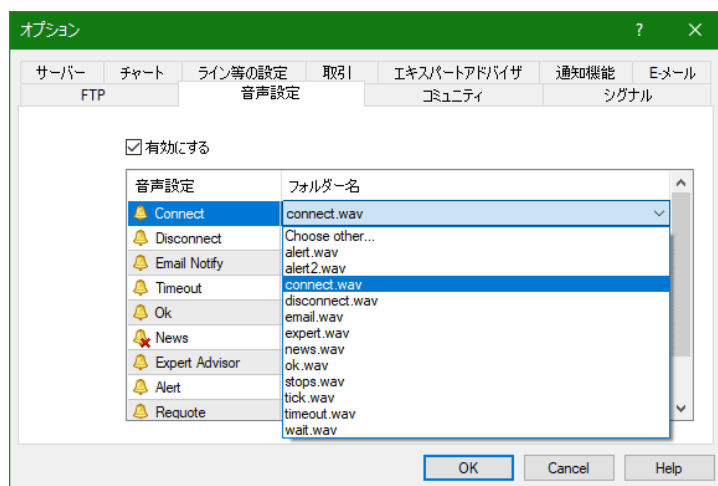
指値約定時に自動再生を停止させたり、音声ファイルを再生させることができます。

MEMO

「擬似トレードでの指値約定時の動作」の各項目は、「トレード・パネルを使用する」を true に設定しているチャートの CR1 で設定してください。「トレード・パネルを使用する」を false に設定しているチャートの CR1 でこれらの設定を変更しても、無視されます。

音声ファイルに指定できるファイルの一覧は、MetaTrader 4 のメニューから [ツール] → [オプション] と選んで表示されるダイアログの、[音声設定] タブの下図の位置に表示されています。

指値約定時に音声を再生したくない場合は、「指値約定時に再生する音声ファイル」に何も入力しないでください。



Sell ボタンの色／Sell ボタンの文字色／Buy ボタンの色／Buy ボタンの文字色

トレード・パネルの売買ボタンと Bid/Ask 価格表示の色を変更できます。

Ask 価格は Buy ボタンの色と文字色で、Bid 価格は Sell ボタンの色と文字色で表示されます。

※ v2.024 より、タイムゾーンの設定は「機能の設定」に移動しました。

値幅ゲージの設定

値幅 (points)

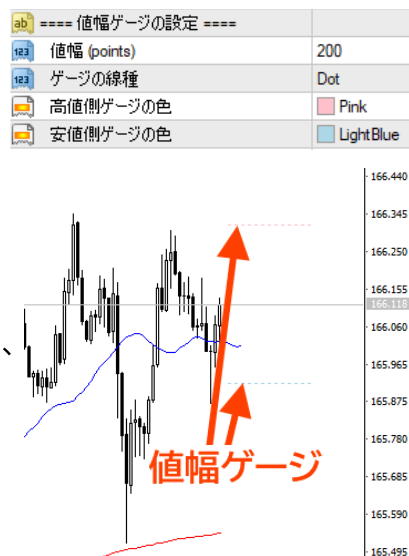
トレーニング・モード中、CR1 が提示している現在値からこの値幅の位置に値幅ゲージ（水平線）を表示します。0 を指定すると値幅ゲージは表示されません。

ゲージの線種

値幅ゲージの線の種類を指定します。Solid（実線）、Dash（破線）、Dot（点線）、Dashdot（一点鎖線）、Dashdotdot（二点鎖線）から選んで指定してください。

高値側ゲージの色／安値側ゲージの色

それぞれ、高値側／安値側の値幅ゲージの色を指定します。



高度な設定

RCC エミュレーション・モード

ab	==== 高度な設定 ====	
ab	RCCエミュレーション・モード(※CR1のマニュアル必読)	false
ab	.	
ab	.	
123	このインジケータが使用するイベントID (この番号から32個を使用します。...	20995

通常は false に設定してください。以下の **注意事項** をよくお読みになり、十分にご理解なさった上で、必要に応じて true に設定してください。

本設定を true に変更すると、CR1 が ReviewCandleChart (RCC) の「フリ」をします。これにより、RCC と連携して動作するインジケータを CR1 と一緒に使うことができます可能性があります。

注意事項

1. CR1 の本機能に関して、ReviewCandleChart の作者様は一切関与されていません。 **本機能に関連して ReviewCandleChart、RCC と連携する各種インジケータの作者様に問い合わせをされま**すと大変ご迷惑がかかりますので、**絶対におやめください**。そのような問い合わせをされますと、使用許諾条件 2.9 に違反し、使用許諾条件 3.1 に基づいて作者は CR1 の使用許諾を終了させる権利を有することとなりますので、十分にご注意ください。
2. 本設定を true にして CR1 を利用された場合の CR1 や RCC と連携する各種インジケータの動作は保証しません。また、RCC と連携する各種インジケータの使用許諾条件に違反しないようご注意ください。ご自身で各ソフトウェアの使用許諾条件をご確認いただき、動作確認の結果ご使用に耐えると判断された場合にのみご自身の責任でご利用ください。
3. CR1 の作者は、他の方が作成されたインジケータに関する一切の問い合わせに応じません。
 - 。「〇〇というインジケータは CR1 と一緒に使えますか」といった類のご質問にも、回答に責任が持てませんのでお答えいたしません。ご自身で確認いただくようお願いいたします。

このインジケータが使用するイベント ID

この設定は明確な理由がない限り変更しないでください。

他のインジケータと使用するイベント番号の範囲が重複していると、本ソフトウェアと他のインジケータの両方が誤作動を起こします。その問題が発生したという確証があり、本設定を変更することで解決する目処がある場合に限り、この設定を変更してください。設定を変更する場合は、本ソフトウェアを導入した全てのチャートで同じ番号に設定してください。

本項目については、CR1-subwin-**** にも同じ設定があります。CR1-**** の設定を変更した場合は、CR1-subwin-**** の設定も同じ番号に設定してください。

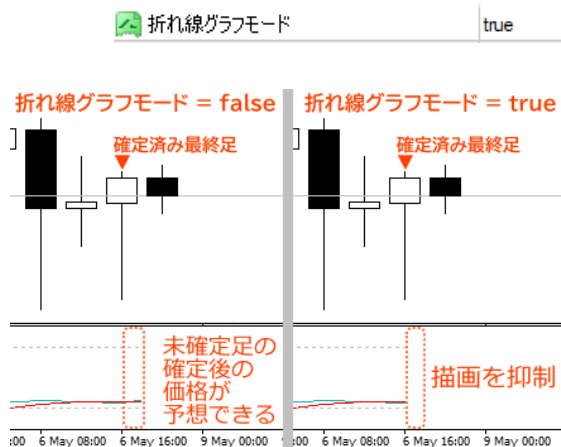
CR1-subwin-**の設定

この設定はサブ・ウィンドウ用のCR1（CR1-subwin-**.ex4）の設定項目です。

折れ線グラフモード

標準ではtrueに設定されています。サブ・ウィンドウに配置したCR1-subwin-**のこの設定をtrueに設定すると、確定済み最終足の中心より右側の部分のオシレーターを非表示にします。設定の効果は右図をご覧ください。

表示が折れ線グラフではないオシレーター（MACD など）を使用される場合は、この設定をfalseに変更することをお勧めします。



MEMO

1つのサブ・ウィンドウに（CR1-subwin 以外に）複数のオシレーターを重ねて表示している場合、この設定で描画を抑制できるのは、そのサブ・ウィンドウに最初に導入したオシレーターだけです。それ以外のオシレーターは、本設定に関係なく「折れ線グラフモード=false」相当の描画となります。これは、技術的制約による仕様です。あらかじめご了承ください。

CR1 用インジケータ並べ替えツール

MetaTrader 4 でチャートに導入されているインジケータの順序を入れ替えるには、通常はインジケータをいったんチャートから削除して、所望の順序で挿入し直す必要があります。これは大変面倒ですので、簡単にインジケータの順序を並べ替えられるツールをご用意しています。以下の手順でご使用ください。

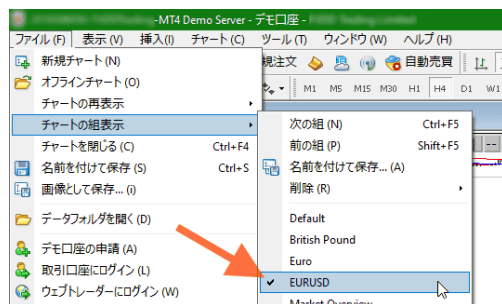
インジケータを並べ替える手順

インジケータを並べ替えたいチャートが属する「組表示」を確認する

インジケータを並べ替えたいチャートが含まれる「組表示」の名前を確認して覚えておいてください。

「組表示」の名前は、右図のようにお使いの MetaTrader 4 のメニューから、[ファイル] → [チャートの組表示] と選び、チェックがついているものを探すことで確認できます。

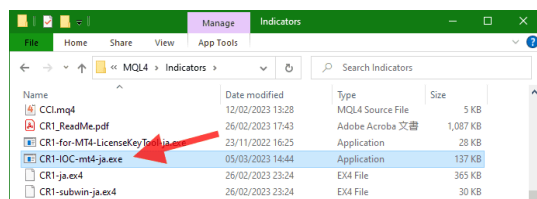
右図の例では「EURUSD」です。



CR1 用インジケータ並べ替えツールを起動する

お使いの MetaTrader 4 のメニューから、[ファイル] → [データフォルダを開く] と選んでデータフォルダを開きます。

データフォルダから[MQL4] → [Indicators] フォルダを開き、“CR1-IOC-mt4-ja.exe” をダブルクリックして起動します。



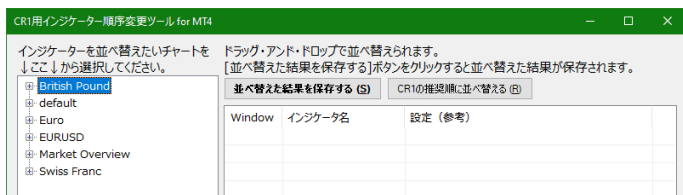
CR1 用インジケータ並べ替えツールが起動し、右図のように表示されます。ここで動作中の MetaTrader 4 をすべて終了させてください。

MEMO

実際には、インジケータを並べ替える MetaTrader 4 だけを終了させれば十分ですが、間違いを防止するためにすべての MetaTrader 4 を終了させることをおすすめします。

インジケータの並べ替えを安全に行うため、すべての MetaTrader 4 を終了させてください。

MetaTrader 4 を終了させると、右図のような画面に切り替わります。

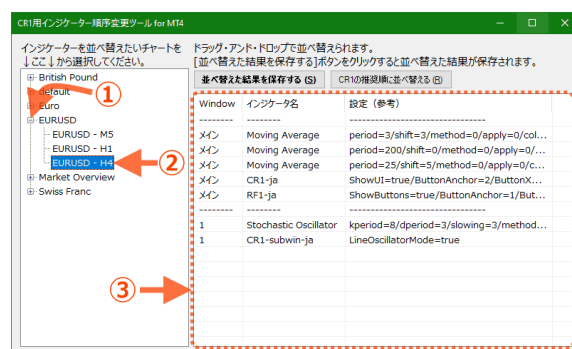


次のページへ続く

インジケータを並べ替えたいチャートを選択する

インジケータを並べ替えたいチャートを探します。左側に表示されているツリーの中から、前の手順で調べておいた「組表示」の名前の左側にある [+] をクリックして展開し (①)、目的のチャートをクリックして選択します (②)。

右側には、このチャートに導入されているインジケータの一覧が表示されます (③)。



インジケータを並べ替える

[CR1 の推奨順に並べ替える] ボタンをクリックすると、このチャート内のインジケータを CR1 が正しく動作する順序に自動的に並べ替えることができます。

このほか、インジケータはドラッグ・アンド・ドロップすることで任意の順序に並べ替えることもできます。

MEMO

Window をまたがってインジケータを移動することはできません。

並べ替えた結果を保存する

[並べ替えた結果を保存する] ボタンをクリックすると、並べ替えた結果を保存できます。並べ替えた結果を保存したチャートを MetaTrader 4 で開くと、並べ替えた結果に基づいてチャートが表示されます。

他にもインジケータの順序を並べ替えたいチャートがある場合は、「インジケータを並べ替えたいチャートを選択する」の手順からを繰り返し実行してください。

並べ替えた結果を確認する

MetaTrader 4 を起動して、インジケータを並べ替えたチャートを開き、チャートが正しく表示されていることを確認してください。

以上で、インジケータの並べ替え作業は終了です。

MEMO

万が一、チャートの表示がおかしくなった（一部のインジケータが消失しているなど）場合は、直ちに「CR1 用インジケータ並べ替えツールの並べ替え結果を元に戻す」に記載の手順で復旧させてください。

CR1 用インジケータ並べ替えツールの並べ替え結果を元に戻す

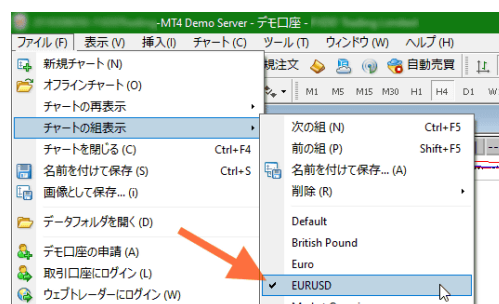
「CR1 用インジケータ並べ替えツール」の作成には万全を期しておりますが、万が一「CR1 用インジケータ並べ替えツール」を使用したことによりチャートの表示に不具合が発生した場合は、この節に記載の手順で復旧させてください。

問題が発生したチャートが属する「組表示」を確認する

問題が発生したチャートが含まれる「組表示」の名前を確認して覚えておいてください。

「組表示」の名前は、右図のようにお使いの MetaTrader 4 のメニューから、[ファイル] → [チャートの組表示] と選び、チェックがついているものを探すことで確認できます。

右図の例では「EURUSD」です。



組表示のプロファイル・フォルダを開く

お使いの MetaTrader 4 のメニューから、[ファイル] → [データフォルダを開く] と選んでデータフォルダを開きます。続けて、データフォルダの中の「profiles」フォルダを開き、先ほど確認した「組表示」の名前がついたフォルダを開きます。

MetaTrader 4 を終了させる

ここで、次の手順に移る前に、必ず MetaTrader 4 を終了させてください。

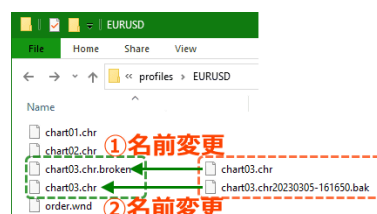
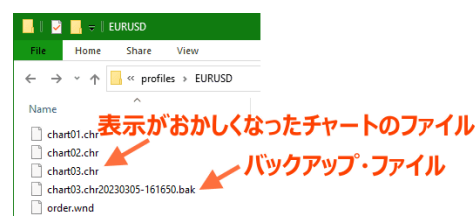
チャートの設定ファイルを復元する

「組表示」の名前がついたフォルダの中には「chartXX.chr」というファイルが1～数個存在します。「CR1 用インジケータ並べ替えツール」で書き換えたファイルには、自動的にバックアップファイルが作成されています。

バックアップ・ファイルには、元のファイルの後ろに「作業日-作業時刻.bak」が追加された名前がつけられています。

表示がおかしくなったチャートのファイルの拡張子を変更します。（右図①）※右図の例では、元のファイル名に「.broken」を追加していますが、他の拡張子でも構いません。

続けて、バックアップファイルのファイル名から「作業日-作業時刻.bak」の部分を削除します。（右図②）



復元結果を確認する

MetaTrader 4 を起動して、問題が起きていたチャートが元通りに表示されることを確認してください。

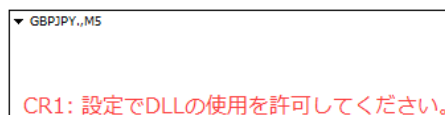
以上で、復元作業は終了です。

トラブル・シューティング（こんなときは）

チャート左上に「設定で DLL の使用を許可してください」と表示される

<想定される原因と対策>

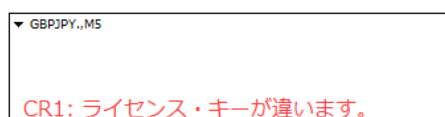
- CR1 に対して DLL を使用する許可が設定されていません。
 - 「チャートへの導入」の説明に従い、CR1 が DLL をロードして使用できるように設定してください。



チャート左上に「ライセンス・キーが違います」と表示される

<想定される原因と対策>

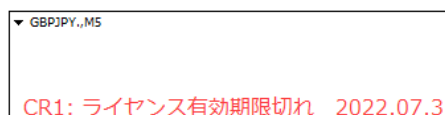
- ライセンス・キーが間違っている
 - 「ライセンス・キーの設定方法」の説明に従い、あなたのライセンス・キーを正しく設定してください。
 - ライセンス・キーのご案内にライセンス・キーが複数行にわたって記載されていた場合はすべての文字を間違いなく連結し、1行で入力してください。ライセンス・キーに空白文字は含まれません。行を連結した際に行の境目に空白文字を残していないかも確認してください。
- β版（バージョン番号が0.で始まるもの）のCR1を使用している
 - バージョン1.000以降のCR1をインストールしてご利用ください。β版には正式版のライセンス・キーはお使いいただけません。



チャート左上に「ライセンス有効期限切れ」と表示される

<想定される原因と対策>

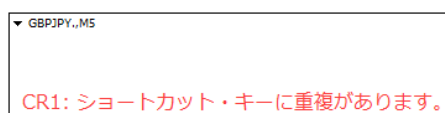
- 有効期限のあるライセンスを使用しており、その有効期限が過ぎた。
 - 新しいライセンスをお求めください。
 - 無期限ライセンスであるにもかかわらずこのメッセージが表示された場合は、販路別に設定されている方法でお問い合わせください。



チャート左上に「ショートカット・キーに重複があります」と表示される

<想定される原因と対策>

- ショートカット・キーの設定で、同一のキーが複数の項目に割り当てられています。
 - 「ショートカット・キーの設定」の説明をお読みいただき、ショートカット・キーの重複を解消してください。



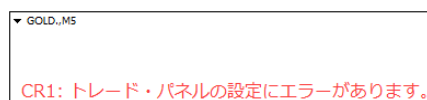
チャート左上に「トレード・パネルの設定にエラーがあります」と表示される

<想定される原因と対策>

エラーの詳細は、MetaTrader 4 の [ターミナル] を開くと、[エキスパート] タブに表示されています。まずは[エキスパート] タブの表示を確認してください。[エキスパート] タブにエラーの詳細が表示されていなかったり、よく分からない場合は、以下の情報もお読みください。

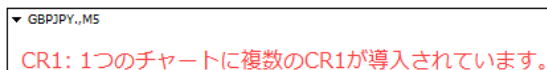
- 「決済通貨→口座通貨の変換用通貨ペア」に、お使いのブローカーでは提供されていない通貨ペアを指定している。
 - 「決済通貨→口座通貨の変換用通貨ペア」を空欄にするか、お使いのブローカーで提供されているシンボル名（通貨ペア）を正しく指定してください。特に接頭辞や接尾辞をつけ忘れていないかご確認ください。例えば、ブローカーが FXTF の場合、通貨ペア名に「USDJPY-**cd**」のように、「**-cd**」という接尾辞がついている場合があります。この場合は、「決済通貨→口座通貨の変換用通貨ペア」には「USDJPY-**cd**」と指定する必要があります。
- CR1 for MT4 のプログラムファイルが破損している
 - CR1 for MT4 を再インストールしてください。

上記のいずれにも該当しない場合は、[エキスパート] タブの表示内容を添えてお問い合わせをお願いいたします。

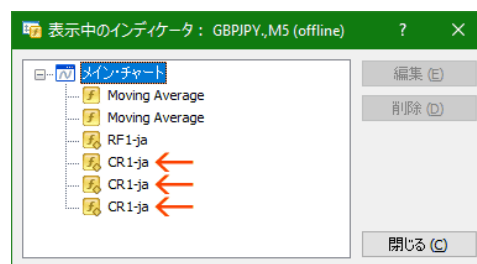


チャート左上に「1つのチャートに複数のCR1が導入されています」と表示される

1つのチャートにCR1を複数導入してしまっています。まず、以下の手順で、1つのチャートには1つだけCR1を導入するように修正してください。



1. チャート上で右クリックし、[表示中のインディケーター]をクリックします。
2. 表示された画面に、表示されているCR1-**をいったんすべて削除して、もう一度1つだけ導入してください。



チャート左上に「この時刻のヒストリカル・データがないかロードされていません」と表示される

CR1 のトレーニング・モードで表示しようとしている時刻のヒストリカル・データが、存在しないか、

チャートにロードされていません。CR1 のトレーニング・モードをオフにして、チャートをその時刻まで巻き戻せるかご確認ください。

▼ GOLD, M5
CR1: この時刻のヒストリカル・データがないかロードされていません

ヒストリカル・データが存在しない場合は、ヒストリカル・データを取得してください。

ヒストリカル・データが存在するにもかかわらずこのメッセージが表示される場合は、MetaTrader 4 の設定で「チャートの最大バー数」を増やすと改善する可能性があります。

チャート左上に「試用版の擬似トレード回数制限に達しました」と表示される

試用版では、擬似トレードの新規発注ができる回数を制限しています（参照：試用版の制約事項）。

「口座を初期状態に戻す（→23 ページ）」の操作をして仮想口座をリセットすると、再び擬似トレードをお試しいただけます。

MEMO

この表示が出た場合でも、既に発注済みのトレードの注文変更や決済注文は可能です。

チャート左上に「証拠金が足りないか、ポジションが多すぎます」と表示される

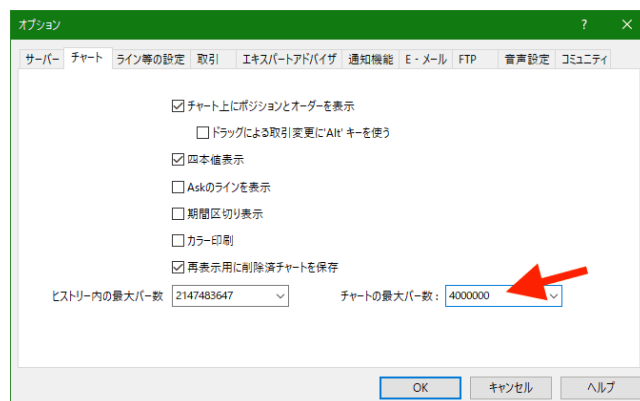
発注数量（ロット数）を発注できるまで小さくしてください。

また、未完結のポジションは最大 200 個まで保有できます。ポジションが 200 個に達している場合は、新たに発注する前に、既存のポジションを決済またはキャンセルしてください。

チャート左上に「メモリ使用量が多すぎます。チャート内のバー数を減らしてください」と表示される

メモリの使用量が、MetaTrader 4 や CR1 の動作に支障が出るほど多すぎる状態になっています。

MetaTrader 4 で [Ctrl] + [O（オー）] キーを押してオプションダイアログ（右図）を開き、「チャートの最大バー数」を、このメッセージが出なくなる値まで減らしてください。



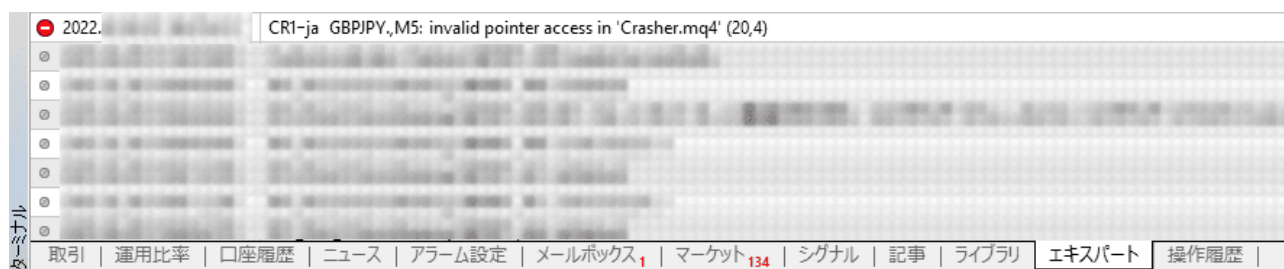
MEMO

MetaTrader 4 の技術的制約のため、MetaTrader 4 はメモリを最大約 3GB までしか使用できません。このメッセージは、パソコンのメモリを増設しても解消しませんのでご注意ください。

CR1 が全く動作しない ／ CR1 が強制終了したようだ

ご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。まことに恐れ入りますが、販路毎に設定された方法でお問い合わせをお願いいたします。

お問い合わせの際は、原因の調査をスムーズに進めるため、お手数でも、MetaTrader 4 の [ターミナル] を開き、[エキスパート] タブの画面キャプチャを併せてお送りいただけますようお願い申し上げます。特に強制終了に関する項目は、行の左端に赤いマーク（下図）がつかますので、その行が含まれるようにご配慮願います。



CR1 の動作がいろいろとおかしい

CR1 の動作がおかしい場合、まずは開きたての何もインジケータが導入されていないチャートに CR1 だけを導入し、問題の現象が発生するか確認してください。問題の現象が発生しなかった場合は、普段お使いのインジケータを 1 つずつチャートに追加していき、問題の現象が発生するか確認してください。

インジケータを 1 つずつ追加していく途中で問題の現象が発生した場合は、その直前に追加したインジケータが原因です。そのインジケータをチャートから外してお使いください。

インジケータの先が見えていて、先の値動きが分かってしまうのですが。

右図のようにローソクが隠れているのにインジケータ（この例では移動平均線）の先が見えてしまっは先の値動きが予測できてしまいます。

この症状を防ぐには、インジケータのチャートへの挿入順序に注意する必要があります。詳しくは、「特に重要な使用上のご注意」をお読みください。



また、ローソクの位置よりも先の値動きを表示してしまうインジケータ（一目均衡表の一部のラインや、上位時間足のローソクを重ねて表示するインジケータなど）は、そのままでは CR1 の動作に対応できず、先の値動きが分かるような表示が見えてしまいます。この場合、「RCC エミュレーション・モード」設定を true にすることで、「RCC と同期をとるインジケータ」各種を利用いただくとご希望の動作が実現できる可能性がございます（動作保証外、RCC エミュレーション・モードの注意事項を必ずお読みください）。

[Alt] キーを押しながらチャートをクリックしても擬似トレードの発注ができません

v2.025 より、チャート上での擬似トレードの発注は [F6] キーを押しながらチャートをクリックするように変更されました。[Alt] キーを使用されたい場合は、設定の「ショートカットキーの設定」→「擬似トレードをチャートから発注」の設定を [Alt] に変更してください。

また、「ショートカットキーを有効にする」が false に設定されている場合も、ショートカットキーが無効になるため擬似トレードの発注ができません。

「ショートカットキーを有効にする」は true に設定してお使いください。

バージョン情報 全般 パラメーターの入力 仕様 色の設定 表示選択	
変数	値
==== ショートカットキーの設定 ====	
ショートカットキーを有効にする	true
トレーニング・モード有効／無効切り替え	1 (テンキー)
ランダムな日付時刻を設定する	2 (テンキー)
Ctrl+Shift+左右矢印キーでローソクを送る(トレーニング・モード中...)	true
指定時刻を1本戻す(トレーニング・モード中のみ有効)	Z
指定時刻を1本進める(トレーニング・モード中のみ有効)	X
自動再生開始／停止	5 (テンキー)
自動再生減速	4 (テンキー)
自動再生加速	6 (テンキー)
トレード・パネルの表示モード変更	9 (テンキー)
価格軸縮小	7 (テンキー)
価格軸拡大	8 (テンキー)
代替時間足ロック／ロック解除	(テンキー)
擬似トレードをチャートから発注	F6



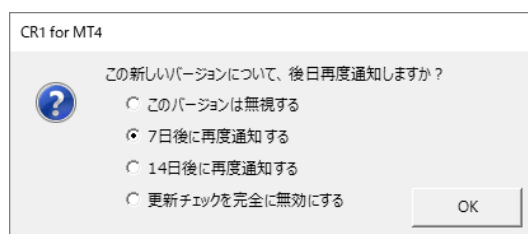
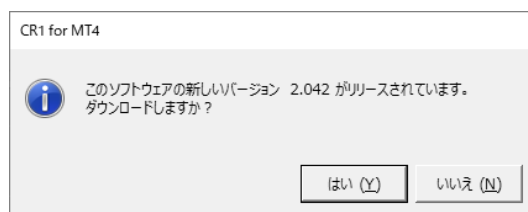
起動時に「このソフトウェアの新しいバージョン*** がリリースされています。」と表示された

CR1 は、おおむね7日おきに、起動時に新しいバージョンがリリースされていないか確認します。

新しいバージョンがリリースされていた場合は、CR1 は右図のようなダイアログを表示します。

このダイアログで [はい] をクリックすると、最新版のインストーラーをダウンロードすることができます。

このダイアログで [いいえ] をクリックすると、今後の自動的なバージョン・アップの確認についていくつかの選択肢が表示されます。ご希望の選択肢を選んで、[OK] ボタンをクリックしてください。



MEMO

今後、バージョン・アップの自動的な確認を希望しない場合は、「更新チェックを完全に無効にする」を選択して「OK」ボタンをクリックしてください。

ライセンス・キーの適正な使用の推進について

ライセンス・キーを使用許諾条件に従って適正に使用いただき、ライセンスを取得されたユーザ様の権利を不正な使用から保護するため、CR1 は、ライセンス・キーの使用状況に関する情報を、作者または著作権者へ定期的に送信します。

送信される情報は、商品コード（CR1 for MT4 日本語版の場合は“CR1-JA-MT4”）、バージョン、暗号化されたライセンス・キーです。受信側ではこれらの情報と、送信元の IP アドレスを記録します。

情報が送信された場合は、「エキスパート」タブに以下のようなメッセージでお知らせいたします。

● 2022.11.09 20:28:44.146 CR1-ja GBPJPY,M5: ライセンス情報を送信しました: CR1-JA-MT4 / 2.000 / EddIqwa8xQfZretjF5vOOkjUxPIbyuJw5HHzTw

送信される情報の安全性は大丈夫ですか？

これらの情報は TLS により暗号化されて送信されます。また、ライセンス・キーは、情報の大部分を欠落させた上で暗号化されていますので、万が一通信中に第三者がこの情報を盗み見ることもできたとしても、ライセンス・キーを復元することはできません。

また、送信される情報には第三者が個人を特定できる情報は含まれていません。

送信された情報はどのように使われますか？

送信いただいた情報は、ライセンス・キーの不正な使用を検出する目的に限って使用します。情報はプログラムによって処理され、プログラムによって一定程度不正の疑いがあると判断された場合に限って、該当するデータだけが手動で精査されます。

同じライセンス・キーを複数台のパソコンで使っていますが、不正使用と見なされたりしませんか？

CR1 のライセンスはユーザ様個人に対して発行しています。ライセンスを購入されたユーザ様がお使いになる限り、複数台のパソコン、複数の口座、複数の MetaTrader 4 で使用してもまったく問題ありませんので、ご安心ください。不正を検出する方法や基準は開示いたしませんので、あらかじめご了承ください。

バージョン履歴

1.000 (2022 年 5 月 16 日)

- ・ 正式版初版

1.001 (2022 年 5 月 18 日)

- ・ [不具合修正] 日付時刻ボックスにはるか未来の日付を入力した状態でトレーニング・モードに入ると、チャートの表示が真っ白になり操作が非常に困難となる不具合を修正しました。

1.002 (2022 年 6 月 6 日)

- ・ [機能改善] 未確定最終足をポイントすると、ツールチップで時刻、始値、高値、安値、終値を表示するようになりました。
- ・ [機能改善] トレーニング・モード中、常に自動スクロールするか、最終足がチャートの視界内の時のみ自動スクロールするかを選択できるようになりました。
- ・ [機能改善] トレーニング・モード終了時に「チャートの自動スクロール」をオンにする設定を追加しました。
- ・ [不具合修正] CR1 を導入しているチャートでは、チャート表示時に「チャートの自動スクロール」が必ずオフに変更されてしまう不具合を修正しました。

1.003 (2022 年 7 月 10 日)

- ・ [不具合修正] トレーニング・モードのまま MT4 を終了した場合、次回の MT4 起動時にサブウィンドウの表示がトレーニング・モードにならない（隠れるべき場所が隠れていない）不具合を修正しました。

1.004 (2022 年 7 月 20 日)

- ・ [機能改善] サブ・ウィンドウに表示するインジケーター（オシレーター等）について、最終確定足の中心より右側を描画しない設定を追加しました。

1.005 (2022 年 7 月 24 日)

- ・ [機能改善] 代替時間足の設定を追加しました。

2.000 (2022 年 11 月 16 日)

- [新機能] トレード・パネル機能を追加しました。
- [機能改善] ローソクのコマ送りがボタン操作でもできるようになりました。
- [機能改善] ボタン等のサイズを 400%まで設定できるようにしました。
- [その他] [ライセンス・キーの適正な利用を促進するための機能](#)を追加しました。

2.001 (2022 年 11 月 23 日)

- [不具合修正] Windows のテキストサイズの設定を 100%以外に設定している場合、日付時刻入力欄の文字サイズが大きくなりすぎる不具合を修正しました（この不具合は v2.000 にのみ含まれます）
- [不具合修正] MACD などの一部のオシレーターにおいて、トレーニング・モードに入っても未来の動きが見えたままになる不具合を修正しました。

2.002 (2022 年 11 月 27 日)

- [不具合修正] 1つのサブ・ウィンドウに複数のオシレーターを配置している場合、2つ目以降のオシレーターがトレーニング・モードでも隠れない不具合を修正しました。

2.003 (2022 年 11 月 29 日)

- [不具合修正] 証拠金維持率の計算が誤っていた不具合を修正しました。
- [不具合修正] トレード・パネルにおいて、擬似エントリー後かつ未決済のトレードがある状態でチャートを再表示または MetaTrader 4 を再起動すると、必要証拠金がゼロと計算される不具合を修正しました。

2.004 (2022 年 12 月 3 日)

- [不具合修正] チャートの組表示を複製した場合、複製の前後の CR1 でトレード・パネルの擬似トレード履歴が共有されてしまう不具合を修正しました。
- [不具合修正] トレード・パネルにおいてエントリーを指値で行った擬似トレードの履歴が CR1 を再起動すると消滅してしまう不具合を修正しました。

2.005 (2022 年 12 月 10 日)

- [新機能] トレーニング・モード時、現在値の上下の指定した値幅の位置に水平線を表示する機能を追加しました。
- [機能改善] トレード・パネルの時刻をローカル時刻で表示する機能を追加しました。
- [機能改善] トレード・パネルの口座履歴タブで、履歴のうち 1 件をダブルクリックすると、そのトレードのエントリー時刻にジャンプする機能を追加しました。

2.006 (2022 年 12 月 24 日)

- [不具合修正] 未確定足の配色が間違っているため、設定によっては未確定足が確定足とは異なった配色で描画される不具合を修正しました。

2.007 (2022 年 12 月 25 日)

- [不具合修正] MetaTrader 4 を再起動、もしくはチャートを再表示すると、キャンセル済みの注文がトレード・パネルの未決済の注文リストに復活してしまう不具合を修正しました。
- [不具合修正] トレード・パネルでの擬似エントリーの指値注文が正しく約定しない不具合を修正しました。

2.008 (2022 年 12 月 31 日)

- [機能改善] 自動再生中にトレード・パネルでの擬似トレードの指値注文が約定した場合に、自動再生を停止したり、音を鳴らしたりする機能を追加しました。
- [機能改善] [R]ボタンでランダムに日付時刻を選択する際、過去チャートのデータがない範囲は選択されないようになりました。
- [不具合修正] トレード・パネルの擬似トレードでエントリーと決済の両方を指値している条件で、エントリーした足が決済指値にもかかっている場合に、ローソク足の形状だけではエントリー後に決済指値に到達したとは断定できない場合でも利確されてしまう不具合を修正しました。

2.009 (2023 年 2 月 4 日)

- [不具合修正] 一部通貨ペアにおいて、トレーニング・モードに入ってもチャートの右側が隠れない場合がある不具合を修正しました。
- [不具合修正] トレード・パネルからトレード履歴等を CSV にエクスポートすると、損益が point 単位であるにもかかわらず、ヘッダでは「損益(pips)」と表記されている不具合を修正しました。

2.010 (2023 年 2 月 9 日)

- [不具合修正] トレード・パネルで指値注文をエントリーの約定前にキャンセルした場合、「取引」タブにキャンセルした注文が表示されたままになる不具合を修正しました。
- [不具合修正] トレード・パネルで指値注文をエントリーの約定前にキャンセルした後、新規の発注をしたり、指値/逆指値決済が約定した場合、それ以降トレード・パネルが操作できなくなる不具合を修正しました。

2.011 (2023 年 2 月 11 日)

- [不具合修正] サブ・ウィンドウに（CR1-subwin-ja を除いて）複数のオシレーターを導入している場合、トレーニング・モードに入っても 2 番目以降のオシレーターが隠れない場合がある不具合を修正しました。
- [機能改善] トレード・パネルは基本的には前回終了時と同じ位置に表示されますが、前回表示位置が画面の範囲外となる場合には画面の見える範囲に表示するように変更しました。

2.012 (2023 年 2 月 14 日)

- [不具合修正] サブ・ウィンドウに（CR1-subwin-ja を除いて）複数のオシレーターを導入している場合、トレーニング・モードに入っても 2 番目以降のオシレーターが隠れない場合がある不具合を修正しました。（修正不十分だった箇所を追加修正しました）

2.013 (2023 年 2 月 26 日)

- [機能改善] 「右側表示中の価格軸を調整する」設定が true の場合でもトレーニング・モード中に価格軸を拡大または縮小できるボタンとショートカット・キーを追加しました。
- [機能改善] 「CR1 対応版インジケーター」に対応しました。※「CR1 対応版インジケーター」は CR1 とは別に配布されます。CR1 の配布ファイルの中には含まれませんのでご注意ください。

2.014 (2023 年 3 月 26 日)

- [機能改善] トレード・パネルのアクティブな注文をチャート上に水平線で表示する機能を追加しました。（※MetaTrader 4 の設定で「チャート上にポジションとオーダーを表示」の設定がチェックされている場合に表示されます。）
- [不具合修正] トレード・パネルにおいて、成行注文の損切幅または損失限定ロット調整の欄に数字を入力したときにエラー・メッセージが表示される場合がある不具合を修正しました。
- [不具合修正] トレード・パネルにおいて、成行注文の損切幅や許容損失のチェック・ボックスにチェックが入っている状態で、数値に解釈できない文字列を入力したまま成行売買のボタンをクリックすると、トレード・パネル全体が操作不可になる不具合を修正しました。
- [不具合修正] エントリーを指値注文したトレードがエントリー済みかつ未決済である状態で、チャートを再表示または MetaTrader 4 を再起動すると、再表示や再起動の後では、エントリーされていないものとして取り扱われる不具合を修正しました。

2.015 (2023 年 4 月 2 日)

- [機能改善] トレード・パネルのアクティブな注文をチャート上に水平線で表示している場合、水平線をドラッグすることで注文価格を編集する機能を追加しました。（※MetaTrader 4 の設定で「チャート上にポジションとオーダーを表示」の設定がチェックされている場合に動作します。）
- [機能改善] トレード・パネルの指値発注において、現在値を価格欄にコピーする機能を追加しました。

2.016 (2023 年 4 月 3 日)

- [不具合修正] 注文価格を示す水平線に注文番号等が表示されない場合がある不具合を修正しました。

2.017 (2023 年 4 月 5 日)

- [不具合修正] バージョン 2.015 と 2.016 において、OANDA Japan 様ほかの一部通貨ペアでは「トレード・パネルの設定が不正です」とのエラーメッセージが表示されてトレード・パネルが動作しない不具合を修正しました。

2.018 (2023 年 4 月 15 日)

- [機能改善] CR1 が導入されているすべてのチャート間で、[END]キーでチャートの最新時刻に戻る操作が同期できるようになりました。（設定でこの動作をオフにすることもできます）
- [不具合修正] トレーニング・モードでないときにも、注文価格を示す水平線をドラッグすることで注文が編集できてしまう不具合を修正しました。

2.019 (2023 年 4 月 16 日)

- [不具合修正] ライセンス・キーの有効期限よりも半日から 1 日程度前に有効期限切れと判定される場合がある不具合を修正しました。

2.020 (2023 年 5 月 6 日)

- [不具合修正] 決済指値、決済逆指値の少なくとも片方が空欄である新規注文のエントリー価格をチャートからドラッグで変更すると、決済注文に不正な数値が設定される場合がある不具合を修正しました。
- [機能改善] トレード・パネルが動作している通貨ペアのチャート上で[Alt]キー(※)を押しながらチャートをクリックすると、新規注文をチャートから発注できる機能を追加しました。
※v2.025 から、標準では [F6] キーに変更されました。設定で [F7], [Alt], [Shift] に変更できます。

2.021 (2023 年 5 月 8 日)

- [不具合修正] トレーニング・モード中に上位足でローソクを送ると、下位足のローソクの表示不正となる場合がある不具合を修正しました。

2.022 (2023 年 5 月 14 日)

- [不具合修正] 未確定足のツールチップが表示されない場合がある不具合を修正しました。
- [機能改善] ローソクを常に代替時間足で進めるモードにロックするショートカット・キーの設定を追加しました。

2.023 (2023 年 6 月 5 日)

- [不具合修正] トレーニング・モードで CR1-subwin を使用しているチャートのヒストリカル・データがない時刻にしたまま当該チャートを閉じた場合、次回チャート表示時に動作が非常に重くなる不具合を修正しました。

2.024 (2023 年 6 月 12 日)

- [機能改善] v2.023 までで、トレード・パネル内の時刻をローカル・タイムで表示する設定にしていた場合は、チャート内の日付時刻入力欄もローカル・タイムで表示するように変更しました。
- [機能改善] トレード・パネルのトレードごとの損益表示をポイント単位で表示するか、金額で表示するか選択できるようになりました。

2.025 (2023 年 6 月 28 日)

- [機能改善] トレード・パネルが動作している通貨ペアのチャート上で新規注文を発注できる機能を使用する際に、クリックと同時に押すキーを選択できるようにし、かつ標準設定を [Alt] キーから [F6] キーに変更しました。これは、RF1 や他のインジケーターで [Alt] キーを使用する操作との競合を避けるためです。

2.026 (2023 年 9 月 9 日)

- [機能改善] トレーニング・モード中、CR1 が隠している期間にある期間区切り線と垂直線が表示されるように変更しました（メインチャートのみ）。※ただし、垂直線の選択状態と、ドラッグ等で移動中の状態は表示されません。

2.027 (2023 年 10 月 2 日)

- [機能改善] トレーニング・モード中、エントリー済みで未決済の注文のエントリー・ラインをドラッグすると、決済注文を発注できるようになりました。

2.028 (2023 年 10 月 21 日)

- [機能改善] トレード・パネルにおいて、擬似トレードの最大許容損失を有効証拠金に対する割合で指定できるようになりました。
- [機能改善] トレード・パネルにおいて、擬似トレードの最大許容損失と逆指値によるロット自動調整機能が、チャートからの発注についても動作するようになりました。

2.029 (2023 年 11 月 15 日)

- [不具合修正] トレード・パネルの「取引」タブに複数の注文がある場合、チャート上に表示されるはずの注文価格を示す線が一部表示されないか、表示が注文変更通りに正しく更新されない場合がある不具合を修正しました。

2.030 (2023 年 11 月 17 日)

- [不具合修正] v2.025～2.029 で、日付時刻入力欄に時刻を手入力した場合、CR1 の設定に関係なくローカル・タイムとして扱われる不具合を修正しました。

2.031 (2023 年 11 月 23 日)

- [不具合修正] 決済指値・決済逆指値をダイアログから変更する場合、正しい注文が受け付けられない場合がある不具合を修正しました。

2.032 (2023 年 11 月 25 日)

- [新機能] トレード・パネルにおいて、買い、売り、それぞれの擬似トレードポジションのサマリー（概要）の表示と、全擬似トレードのポジションを一括で決済する機能を追加しました。
- [機能改善] 指値発注タブ、注文編集ダイアログにおいて、リスクリワード比を表示するようにしました。
- [機能改善] 同一のチャートに CR1 を複数導入した場合に、エラーメッセージが表示されるように改善しました。

2.033 (2023 年 12 月 3 日)

- [機能改善] トレーニング・モードでは、本物の価格ラインを自動的に非表示とするように変更しました。
- [不具合修正] トレード・パネルにおいて、大量のポジションがある場合に成行決済を実行するとトレード・パネルがフリーズする場合がある不具合を修正しました。
- [仕様変更] 上記不具合修正に伴い、オープン・ポジションの個数の上限を 200 個とします。2.031 までのバージョンでは、上限は仕様では明示しておらず、諸処の条件により実質的に 30～50 ポジションが正常動作の上限でした。

2.034 (2023 年 12 月 10 日)

- [不具合修正] 擬似トレードの注文約定時にチャートの自動再生を停止する設定の場合、「トレード・パネルを使用する」の設定が false のチャートから自動再生をしているときは、注文が約定しても自動再生が停止しない不具合を修正しました。

2.035 (2024 年 2 月 11 日)

- [不具合修正] チャートから擬似トレードを発注するためのボタンが、Windows の設定によっては非常に小さく表示される場合がある不具合を修正しました。
- [機能改善] 取引口座にログインしていない場合は、トレード・パネルが動作しない旨の警告を表示するように改善しました。

2.036 (2024 年 2 月 22 日)

- [不具合修正] 証拠金不足の状態でも擬似トレードを発注すると、動作環境によってはトレード／パネルが操作不可能になる不具合を修正しました。
- [機能改善] トレード・パネルの売買ボタンをお好みに色に設定できるようにしました。

2.037 (2024 年 3 月 14 日)

- [機能改善] 擬似トレードの発注ができなかった場合に、その理由をトレード・パネルに加えてチャート上にも表示するようにしました。
- [機能改善] メモリ使用量が基準値 3000MB を超えた場合に、エラーメッセージを表示するようにしました。
- [機能改善] トレード・パネルの起動ができなかった場合のエラーメッセージを詳細化しました。

2.038 (2024 年 3 月 30 日)

- [機能改善] トレード・パネルの CSV 出力機能について、損益の額に対して、口座残高の計算に使用しているものと同じ丸め処理を行うようにしました。
- [不具合修正] トレード・パネルの擬似トレードにおいて発注数量を手動で入力する場合、本来は許容されていない端数でも発注できていた問題を修正しました。このバージョンからは、発注数量 (Lot) に入力された当該通貨ペアで許容されている単位数量未満の端数は切り捨てられます。
- [機能改善] CR1 用インジケータ並べ替えツールを、CR1 に同梱するようにしました。

2.039 (2024 年 4 月 13 日)

- [機能改善] トレーニング・モードでヒストリカル・データがない時刻に移動したとき、エラーメッセージを表示するようにしました。

2.040 (2024 年 4 月 23 日)

- [不具合修正] 2.038 以降において、擬似トレードで発注できる最小単位が本来よりも 1 桁少ない (※例えば、本来、0.01 単位で発注できるところ、0.1 単位でしか発注できない) 場合がある不具合を修正しました。

2.041 (2024 年 5 月 1 日)

- [不具合修正] 価格軸の拡大縮小率が、トレーニング・モードに入った直後は復元されない不具合を修正しました。
- [機能改善] バージョン・アップがある場合は起動時に通知するようにしました。この通知は設定でオフにすることができます。